



カナダだけの
体験を旅行素材に

Canadian Signature Experiences



羽田便就航と朝ドラ効果が後押し 盛り上がりを見せるカナダへの旅行需要

カナダ観光局 (CTC) 日本代表モリーン・ライリー氏に聞く

日本からカナダへの旅行需要は、ここ数年厳しい状況が続いていたが、この1〜2年はオーロラ需要が盛り上がったことで、徐々に持ち直しを見せている。今年は航空2社(全日空、エア・カナダ)による羽田便就航、さらにNHK朝ドラ「花子とアン」で、ますますその勢いが加速する状況。こうした追い風を受け、旅行業界も日本側／カナダ側双方で活況を見せてきている。現状や今後の展開、見通しについて、カナダ観光局(CTC)日本代表のモリーン・ライリー氏(写真)に話を伺った。

「カナダを積極的に売ろうとする機運が鮮明に高まっている」

ー 日本マーケットの現状について

数字の面では、羽田就航による効果が4月以降に表れるはず。間違いなく数字は伸びる。各旅行会社でカナダを積極的に売ろうとする機運が鮮明に高まっている感じを強く受けている。この波に乗って、さらに波を大きなものにしてきたい。

ー 好調の要因は

やはり羽田便就航に伴う航空座席供給の増加が挙げられる。またNHKの朝ドラ「花子とアン」による効果も大きい。さらにアルバータ州のグレイシャー・スカイウォーク、オンタリオ州ナイアガラの滝の新しいクルーズ船など、新しいアトラクションも揃った。こうしたことで、カナダの存在感が強まったと考えている。メディアへの露出をさらに増やすことで、存在感をさらに高めてきたい。

体験型素材を取り入れた
新しい商品造成の動き

ー パッケージ商品での変化は

各旅行会社がこれまでにない新しいパッケージ商品を造成する動きを見せている。これまでCTCは、カナダでできる体験を、「Canadian Signature Experiences (CSE)」として、ウェブサイトなどを通じて紹介してきたが、それを見た消費者から極地にあるものなど「体験するにはハードルが高いものも含まれている」という声を頂いた。こうした体験を提供する受け皿となるのが旅行会社だと考えている。その意味でも各旅行会社でCSEの体験を取り入れた新しい商品化の動きを見せていることは大変喜ばしい。



オカナガン地方
(ブリティッシュ・コロンビア州)
© Destination BC/Don Weixl

例えば、アルバータ州の恐竜を切り口とした商品、オンタリオ州のアルゴンキンやブルーマウンテン、ブリティッシュ・コロンビア州のオカナガン地方、さらにケベック州の夏の商品など、これまでのいわゆる定番の周遊ツアーとは違う、新しい切り口によるツアーが増えている。



CTC日本代表のモリーン・ライリー氏

CTC、若者誘致を強化
2017年カナダ建国150周年へ向け

ー 今後の展開について

カナダ観光局では、2017年のカナダ建国150周年へ向け、若者の誘致にも力を入れる。若者は35歳までの定義。「心も身体も若い感覚を持った人」を指しており、実際に日本でも若い人のカナダへの渡航が増えている。カナダへの訪問者は熟年層が多い、というイメージに捉えがちだが、実際は55歳以下の人の割合が全体の72%を占めており、現在のターゲットをより拡げていきたいと考えている。

ー 若者への具体的なプロモーション展開については

これから検討していく。テレビなど、メディアを通じた露出、また若者に強い旅行会社との協力も不可欠となるだろう。すでにテストケースとして、いくつかの旅行会社の協力で若者への商品展開を準備している。2017年の建国150周年を前に、段階的に若者の渡航を増やしていきたい。

カナダの旅行商品は高額となるが、体験の価値の高さを打ち出して、新しいカナダの魅力を若者に訴求したいと考えている。

教育旅行の重要性に注目
リピーターとなる高い潜在性

ー 教育旅行については

若者の誘致にあたり、特に日本において重要となるのが教育旅行。6月にはエア・カナダ、各州／準州観光局で構成する「チームカナダ」と共同で旅行会社に対しトレーニングを行う予定。8月には教員を対象としたセミナーの開催も検討している。

これまで留学やワーキングホリデーなど、ビザを必要とした旅行はカナダ大使館、ビザがいらない修学旅行や短期の語学研修についてはカナダ観光局が担当してきたが、今後はワーキングホリデーなどについても観光局で大使館と協力しながら誘致に力を入れたいと考えている。

羽田便就航により、400〜600名規模など、より大型の修学旅行の受け入れも可能となる。さらに教育旅行で訪れた生徒や学生は将来的なカナダのリピーターになる確率が高く、大きな潜在性を秘めている。その意味でも教育旅行は積極的に誘致を図っていきたい。

10月に日本市場向けだけのワークショップ開催
「Focus Canada Japan」

ー 10月開催の「Focus Canada Japan」について

日本市場だけを対象としたワークショップで今年初開催となる。これまで数年間にわたって、日本を含むアジアマーケットを対象としたワークショップとして「Showcase Canada Asia」を開催してきたが、以前より日本側、カナダ側双方から日本だけを対象としたワークショップ開催への要望が強かった。こうした背景があり、今回「Focus Canada Japan」の実施を決定した。

カナダ側セラーに対して参加の募集を呼びかけており、すでに当初の予測を超える参加の申し込みを受けている。予想以上に参加社／団体が集まったため、より良いアポイントの方法を検討している。また「Focus Canada Japan」に合わせて、各州でもミッションを計画している。なお、日本側旅行会社への案内は7月ごろを予定している。



昨年10月に中国の杭州で開催された「Showcase Canada」の様子

日本側／カナダ側双方でマーケットを盛り上げる機運
日本人訪問者数20万人突破目指す

ー カナダ側の日本に対する関心も高まっている？

「Focus Canada Japan」の参加状況からも分かる通り、カナダ側サプライヤーの日本に対する関心も高まっている。これまでは中国市場にシフトする動きが強かったが、羽田便就航で航空座席供給量が増え、サプライヤー自身も新しいプロダクトが揃ったことから「日本マーケットで何かできないか」という声を多く受けている。

日本側の旅行会社とカナダ側のサプライヤー双方でマーケットを盛り上げていこうという機運はここ数年では見られなかった状況。今年はカナダ観光局としては日本からの訪問者数を前年比4.5%増の19万7400人を見込んでいるが、個人的には20万人の突破を目指していきたいと考えている。

週刊ウイングトラベル「カナダ特集2014」目次

WING Travel Weekly “Canada Special 2014” Contents

カナダ観光局 (CTC)	Canadian Tourism Commission (CTC)	Page 2
エア・カナダ	Air Canada	Page 3
RVC2014レポート ①	RVC2014 Report ①	Page 4
RVC2014 FAMレポート	RVC2014 FAM Report	Page 5
ANA	ANA	Page 6
ブリティッシュ・コロンビア州	British Columbia	Page 7
アルバータ州	Alberta	Page 8
思い出作ろう! 体験するカナダ	Canadian Signature Experiences	Page 9-12
デルタ航空	DELTA	Page 13
カナダでドライブ	Driving in Canada	Page 14
エイビスレンタカー	AVIS Rent A Car	Page 14
オンタリオ州	Ontario	Page 15
RVC2014レポート ②	RVC2014 Report ②	Page 16-17
旅行会社レポート	Agency Update	Page 18
プリンス・エドワード島州	Prince Edward Island	Page 19
エア・カナダ	Air Canada	Page 20

エア・カナダ Air Canada	Page 3・20
ANA ANA	Page 6
デルタ航空 DELTA	Page 13
エイビスレンタカー Avis Rent A Car	Page 14
プリンス・エドワード島州 Prince Edward Island	Page 19
オンタリオ州 Ontario	Page 15
アルバータ州 Alberta	Page 8
ブリティッシュ・コロンビア州 British Columbia	Page 7

羽田⇄トロント線就航 カナダ3都市へますます便利に

7月2日(羽田発)より羽田⇄トロント線を開設するエア・カナダ。日本からカナダ3都市(トロント、バンクーバー、カルガリー)へのアクセスはますます便利になる。カナダ国内線ネットワークの充実度も同社の大きな強み。3都市をゲートウェイに、カナダ各地へスムーズに乗り継ぐことができる。またサービス面でも、北米の国際線航空会社で唯一スカイトラックス社の4つ星ランクを獲得、羽田⇄トロント線には、最新鋭のB787型機を投入、最新のシートや機内プロダクトを搭載するなど、質の高いサービスを提供する。

北米へ唯一の昼便、羽田⇄トロント線 乗り継ぎがスムーズ

エア・カナダの羽田⇄トロント線は、羽田発北米行きのフライトの中で唯一の昼便。往復ともに羽田で日本各地の国内線フライトとの乗り継ぎが可能だ。またトロントから先への乗り継ぎもスムーズ。カナダ東部各地はもとより、アメリカ、キューバのハバナ、さらに南米各都市(リマ、サンティアゴ、ブエノスアイレス、サンパウロ、12月11日よりリオ・

デ・ジャネイロ)へのフライトにも同日乗り継ぎできる。

アメリカ、キューバ、南米のフライトへ乗り継ぐ場合は、トロントでの受託手荷物のピックアップは不要。さらにトロントでアメリカの入国/税関審査を受けることができるので、アメリカ到着時はすぐに荷物をピックアップして空港を出ることが可能だ。

羽田⇄トロント線 フライトスケジュール(2014年7月2日～)

便名	曜日	出発	到着
AC006	毎日	羽田 17:40発	トロント 16:40着
AC005	毎日	トロント 13:00発	羽田 14:55着(翌日)

※フライトスケジュールは予告なく変更することがあります。

最新鋭のB787ドリームライナーを投入 快適、最新の機内環境を提供

羽田⇄トロント線には、エア・カナダのアジア路線において、初めて最新鋭のB787型機(ドリームライナー)を投入する(7月16日羽田発より導入予定)。同社は2019年までにB787-8型機を22機、B787-9型機を15機、計37機を順次導入する計画だ。

機内は、従来機と比べ窓が約30%も大きくなり、シェード(日除け)の代わりに電子カーテンを採用。また天井も高く、頭上の荷物入れスペースも大きくなった。新しい空調システムで、空気がよりクリーンに、さらに機体に炭素複合素材を用いることで、機内を一定の湿度に保

つことができ、機内の乾燥を防ぐこともできる。

内装も一新。180度フルフラットシート完備の国際線ビジネスクラス、ワンランク上の快適性を提供するプレミアム・エコノミー、「スリムラインシート」で足元広々なエコノミークラスの3クラス制で、機内エンターテインメントは、最新のタッチパネル式スクリーンを全クラス各席に搭載、豊富なコンテンツを楽しめる。さらに各種プラグに対応するユニバーサル電源と、スマートフォンなどの充電が可能なUSBポートも完備する。

カナダ3都市へノンストップはエア・カナダだけ 充実のカナダ国内線ネットワーク

新たに運航を開始した羽田⇄トロント線に加え、エア・カナダは、成田⇄トロント線、成田⇄バンクーバー線、成田⇄カルガリー線も運航、カナダ3都市へ毎日ノンストップ便を運航するのは同社だけだ(冬期スケジュールは成田⇄カルガリー線を週3便で運航予定)。

またカナダの航空会社として、充実の国内線ネットワークを展開。日本からの直行便が飛ぶ3都市をゲートウェイに、カナダ各地へスムーズに移動できる。

例えば、オーロラ鑑賞の拠点となるイエローナイフやホワイトホースへは、バンクーバーまたはカルガリー経由でアク

セスが可能。小説「赤毛のアン」の舞台として日本人に人気の高いプリンス・エドワード島のシャーロットタウンへは、羽田または成田からトロント乗り継ぎが便利だ。島へ陸路でアクセスできるカナダ東海岸の拠点都市ハリファックスへもトロントからフライトが飛ぶ。

さらに首都のオタワ、フランスの雰囲気を感じさせるモントリオールへは、トロント、バンクーバー、カルガリーの3都市すべてから乗り継ぐことが可能。特にトロント⇄オタワ間など、主要な国内線はほぼ1時間に1本程度の運航で、乗り継ぎフライトの選択肢が豊富で便利だ。



最新情報は

業界向けニュースレター 「Air Canada Flash」でチェック!

エア・カナダの業界向けニュースレター「Air Canada Flash」では、予約/発券、空港関係の重要なお知らせや最新の燃油費など、旬な情報を紹介、無料で購読できるので、最新情報はぜひここでチェックしたい。

【Air Canada Flash 登録URL】 <http://www.aircanada.jp/trade/eDM>



B787型機

北米の国際線航空会社で唯一の4つ星ランク すべてのクラスで質の高いサービス



エア・カナダは、英スカイトラックス社調査で2013年に「北米のベストエアライン」を受賞、北米の国際線航空会社で唯一4つ星ランクを獲得している。「ベストエアライン」の称号は、

「北米の国際線ベストエアライン」を含めると4年連続、ほかにも数多くのアワード受賞歴を誇り、同社のサービスレベルの高さを示している。

個室感覚のフルフラットベッドシート 全席通路へアクセス

国際線ビジネスクラス

エア・カナダの国際線ビジネスクラスは、すべて180度リクライニング可能なフルフラットベッドシート。全席通路側にアクセスできるのもうれしい。

最新のB787型機には、仕切りで区切られた個室感覚の「エグゼクティブ・ポッド」を搭載、全長203センチのフルフラットベッドで、長いフライトでも快適な睡眠をとることができる。また業界最大級の18インチ大型スクリーンでは、最新仕様のタッチパッドリモ

コンを使って機内エンターテインメントを楽しめるほか、ユニバーサル電源、USBポート、収納式大型テーブルを完備する。

機内食は、懐石風の和食を含む4種類からチョイスが可能。ボリュームもある。飲み物も充実。上質なワインメニュー、「Lavazza」の淹れたてエスプレッソなど、ぜひ機内で味わいたい。またアメニティー・キットには、バンクーバー発の自然派コスメ「Escentis」のアロマテラピー製品を採用している。



B787型機



ワンランク上の上質な旅を約束

プレミアム・エコノミー

B787型機で提供するプレミアム・エコノミーは、全21席で2-3-2の配列。シートピッチ96.5cm、シート幅49.5cmのシートで、エコノミークラスと比べ、広々としたスペースを提供、リクライニングも深く、ワンランク上の快適で上質な旅を約束する。

各シートに搭載された最新のタッ

チパネル式スクリーンは11インチの大型で、機内エンターテインメントを楽しむことができる。ユニバーサル電源とUSBポートも全シートに装備。機内食は、エコノミークラスとは違ったプレミアム・エコノミーだけのプレミアム感あるメニューを提供、オリジナルカクテルなど、バーサービスも楽しめる。



B787型機



「スリムラインシート」で足元ゆったり

エコノミークラス

通常よりも広めのシートで好評なエコノミークラス。B787型機には、最新の「スリムラインシート」を導入、3-3-3の配列で、足元ゆったり、長いフライトでも快適だ。また全席に9インチのタッチパネル式スクリーンを搭載、機

内エンターテインメントを楽しむことができるほか、USBポートでスマートフォンなどの充電も可能、一部座席にはユニバーサル電源も完備する。機内食はメインを2種類からチョイス。ワインやビールなどのアルコール類はもちろん無料だ。



B787型機



RVC2014、BC州バンクーバーで開催 日本人バイヤー 38名参加

今年で38回目となるCTC主催のトラベルトレードショー「RVC2014」がブリティッシュ・コロンビア(BC)州バンクーバーでスタートした。5月27日から30日の4日間、カナダ側からは526社／団体934名が参加、旅行会社バイヤーとして、日本を含む28か国477名が集まった。バイヤーの数は今回が過去最高。国別で見ると、アメリカの70名を筆頭に、中国から61名、次に日本の38名、ドイツの32名が続く。バンクーバーでの開催は2008年以来。なお、来年は5月26日から29日まで、オンタリオ州ナイアガラ・フォールズで開催する予定だ。

【取材／文章／写真：宮原夏樹、協力：カナダ観光局(CTC)／ブリティッシュ・コロンビア州観光局】

ベルニエ観光大臣、観光への投資に意欲 「ブランドUSA」意識、17年建国150周年へ向け

RCV2014のイベントに出席したカナダ連邦中小企業・観光担当国務大臣のマクシム・ベルニエ氏は、弊紙インタビューに答え、「2年前よりブランドUSAがスタートし、我々を取り巻く状況は大きく変化している」と語り、観光産業への投資に強い意欲を見せた。

ベルニエ観光大臣は、「CTCがカナダのプロモーション戦略を決定する。CTC主導によるプロモーションが必要」と説明。また昨年9月にプリンス・エドワード島で各州の観光担当大臣や旅行業界関係者を集めた会合を開いたことに触れ、その中で「観光産業への投資を増やしてほしいというリクエストを多く受けた」と語り、今後の投資の必要性に理解を示した。なお、具体的なプランは未定だが、現在検討中だ。

一方、日本市場について、大臣は「カナダの観光産業にとって、日本はコアな



ベルニエ観光大臣

マーケットのひとつだと認識している」とコメント。特に「CTCと業界パートナーである旅行会社との関係が緊密。それだけCTCは旅行会社との関係を重視しており、関係を今後も維持し、さらなる渡航者増につなげたい」と今後の日本市場の成長に強い期待を見せた。

CTC、10月に日本だけのワークショップ開催 クラッセンCEO、14年日本人19.7万人4.5%増予測

またCTC社長兼CEO(Interim)のグレッグ・クラッセン氏が弊社インタビューに答え、今年の10月16日に日本市場向けのワークショップ「Focus Canada Japan」を都内ホテルで開催することを明らかにした。また日本市場について、「今年は羽田線の就航で日本⇄カナダ間の航空座席供給が前年比で22%増となる。まずはこの増えた座席を埋めることに徹したい」と強調、今年のカナダへの日本人訪問者数を前年比4.5%増となる19万7400人(全訪問者数から宿泊しない人を差し引いた調整後の推計値)と見込む。

日本市場だけをターゲットにしたワークショップ開催は久しぶり。CTCは2009年より日本を含むアジア市場を対象とした「Showcase Canada Asia」をスタート、昨年は中国の杭州で開催し、日本から旅行会社26社が参加した。クラッセン氏は「マーケットの特性を考慮した結果だ」と日本単独開催への背景を説明。ちなみに「Showcase Canada Asia」は日本以外のアジアマーケットを対象に10月19日から24日まで中国の瀋陽で開催する。



CTCクラッセンCEO

日本からカナダへの訪問者数は、昨年前年比0.6%減となる18万8900人(同上。ちなみに調整前の全訪問者数は22万4858人)を記録、全海外旅行者数が昨年6%減だったのに比べ、わずかながらの減少に収まった形だ。

今年は最新の1～3月の累計で前年同期比0.1%減の4万2215人(調整前の全訪問者数)とほぼ横ばい。4月以降は航空座席供給量の増加、さらにNHKの朝ドラ「花子とアン」による相乗効果によるプラスにCTCでは期待をかける。

トレード重視の姿勢を継続 若者誘致強化へ、教育旅行の重要性を指摘

一方、クラッセン氏は、日本マーケットにおける旅行会社の役割を強く意識、「旅行者を増やす上で、旅行会社は大きな役割を担っている。今後も重要なパートナーである旅行会社との関係は維持していきたい」とアピールした。また全マーケットへ向け、若者誘致を強化する姿勢

を示し、特に日本市場においては「教育旅行を引き続き強化していく」考えだ。

CTCは、2017年のカナダ建国150周年へ向け、若年層マーケット拡大を大きな方針に掲げる。なかでも「教育旅行は、親類の訪問をもたらし、将来的なカナダのリピーターにもなる潜在性の高いマーケットだ」とその重要性を指摘。日本市場においても「例えば子供の留学中に両親がカナダへ訪れ、ナイアガラ滝のヘリコプターを体験するなど、高い旅行消費が期待できる。おじいちゃん、おばあちゃんなど、三世代でカナダへ訪れるケースも考えられる」と述べ、大きな期待を示した。



来年の「RVC2015」は5月にオンタリオ州ナイアガラ・フォールズで開催される



日本／カナダ側双方で盛り上がり

今回のRVCで強く感じたのは、日本側旅行会社バイヤーとカナダ側セラー双方でマーケットを盛り上げようという雰囲気を感じられた点。どちらの参加者に話を聞いても前向きな意見を数多く聞くことができた。

全日空(ANA)の羽田⇄バンクーバー線、エア・カナダの羽田⇄トロント線という2つの新しい航空路線の就航はここ数年なかった状況で、航空座席供給が増えたことで、日本側旅行会社のカナダに対する取り組みが前向きとなっただけでなく、カナダ側セラーの間においても再



会場にはちょっとした息抜きコーナーも

び日本市場に力を入れようとする意識が高まっている。観光客の足となる航空便が旅行需要を盛り上げるうえで、いかに大切かということを認識させられた。

若者マーケットの開拓に注目集まる

また今回のRVCで挙がったキーワードで多く挙がったのが若者。カナダ観光局として2017年のカナダ建国150周年へ向け、若者誘致を強化する方針を見せており、日本市場においても本格的な取り組みが期待される。

定番の周遊観光とは異なるFIT層は増加傾向にあり、今後カナダの売り上げを伸ばす上でもより若いマインドを持った人への取り組みが旅行会社に求められる。さらに若者誘致の意味において、教育

旅行へのアプローチも必要不可欠。英語圏で安全、安心のイメージが強いカナダは大きなアドバンテージがある。実際に今回のRVCの会場となったバンクーバーやFAMで訪れたビクトリアでも修学旅行の生徒を数多く見かけた。

航空座席供給量が増えたことで、より大型の修学旅行の誘致もやすくなった今、よりカナダへの旅行需要を盛り上げるべく、日本側カナダ側双方の動きに注目したい。

カナダ観光局が提案する「Canadian Signature Experiences」 CTCエクスペリエンス・スペシャリスト フランク・バーシュレン氏に聞く

カナダ観光局(CTC)の「Canadian Signature Experiences(CSE)」は、カナダでしか体験できない素材を集め、国際マーケットへ向けて発信する新しいマーケティング戦略として、2011年にスタートした(当初は「Signature Experience Collection」として開始)。翌年には世界に先駆けて日本マーケットに導入。カナダ旅行定番の素材から、新しい体験まで、幅広いラインナップをそろえ、旅行パッケージにも数多く取り入れられている。CSEの現状や今後の展開について、CTCでCSEの選定や登録に携わるエクスペリエンス・スペシャリストのフランク・バーシュレン氏(写真)に話を伺った。



フランク・バーシュレン氏
CTCエクスペリエンス・スペシャリスト

CSEの現状について

現在は計183の「体験」が登録されている。その数は毎年増えており、今後もその数を増やしていきたいと考えている。その一方で、「体験」を取りやめた会社もあり、昨年はおよそ10の「体験」が登録から外れた。基本的に登録には一定の基準を満たせばOK。我々は常に門戸を開いている。

「体験」を提供する 会社にとってのメリットは

おおむね好評を得ている。CSEに登録することで、専用のロゴをパンフレットやウェブサイトに掲載することができ、これが「観光局のお墨付き」の証として、顧客からの信頼を得ているようだ。またブランディングの一環ともなっており、「CSEをマーケティングに活用している」との声を頂いている。

また日本を含む世界各国のマーケットでメディアや旅行商品を通してCSEが露出されており、CSEはカナダの魅力を紹介する「良きアンバサダー」となっている印象だ。

旅行会社へのメッセージを

CSEの立ち上げに合わせ、メディアや旅行会社の方々に自由に利用して頂けるようイメージライブラリーを設けている。CSEの「体験」の数々を画像で紹介できるよう、ぜひ旅行会社の皆様にもライブラリーを活用して頂きたい。

旅行パッケージをより魅力あるものにするために、ぜひCSEを取り入れて頂きたい。これからさらに厳選してカナダを代表する「体験」を増やしていきたい。

BC州ビクトリアで カナダだけの体験を

今年のRVC2014のFAMで訪れたのは、プリティッシュ・コロンビア(BC)州の州都ビクトリア。バンクーバーとはまた違った魅力のある町だ。日本からは花が咲き誇る春のシーズンや夏に訪れるケースが多く、修学旅行をはじめとする教育旅行の目的地としても人気が高い。ビクトリアでカナダだけの体験を探してみた。

【取材／文章／写真：宮原夏樹、協力：カナダ観光局(CTC)／プリティッシュ・コロンビア州観光局】

個人旅行におすすめの水上飛行機 眼下に広がる絶景、移動手段が旅の醍醐味に

日本からのゲートウェイとなるバンクーバーからビクトリアへはいくつか移動手段がある。一般的なツアーでは、バスで訪れる(途中、カーフェリーに乗船)ケースがほとんどだが、個人旅行であれば、水上飛行機の利用も勧めたい。

水上飛行機のメリットはさまざま。もちろん移動時間は最短。わずか30分程度の飛行時間でビクトリアへ向かうことができる。またバンクーバー、ビクトリア共に町の中心に乗り場がある。

バンクーバー⇄ビクトリア間には通常の飛行機も飛んでいるが、どちらも空港から町の中心部へは30分から1時間程度(交通事情による)の移動時間がかかる。例えば日本からバンクーバー経由でビクトリアへ乗り継ぐ際は、飛行機の利用が便利だが、バンクーバーに滞在してからビクトリアへ移動して観光する場合は水上飛行機のほうにメリットがある。



ビクトリアの町が眼下に



乗り場は町のど真ん中

水陸両用車で効率よく町をまわる 新登場!ビクトリア・ヒップツアー

昨年スタートしたばかりの「ビクトリア・ヒップツアー」。ユニークな水陸両用車でビクトリアの町をぐるりとまわる。ヒッポ(カバ)の形を模した水陸両用車のかわいらしい車体は子供たちに人気。最近お目見えしたアトラクションなので、地元の人もその姿にびっくりして足を止める。

ツアーは1日3回。ピークシーズンには本数を増やす。人気があるので、事前予約が確実。まずは町の主要なポイントを解説付きでぐるり。英語による解説だが、比較的分かりやすい内容だ。

波止場へ向かうといよいよ水上へ。事前の安全チェックが済めば、カバは水面へ向けて突進。ビクトリア港からはエンプレスホテルや州議事堂、さらに着水した水上飛行機を見ることができる。まだ肌寒い時期だったが、夏になれば心地よい風を浴びながら水陸両用車は港の中を航行する。

再度、上陸する際には車体前方から水しぶきを上げ、まるでカバが鼻から水を



港から街を眺める



水上飛行機に乗り込む

そして注目したいのが日本でまず体験できない水上飛行機に乗れるという点。水面から発進して飛行機が徐々に浮上し、窓から眺めるバンクーバーの高層ビル群は実にダイナミック。まわりには緑が広がり、やがて島が点在するエリアへ。地図を見るとアメリカはすぐ先。もちろん空の上には国境線は存在しない。あっという間にビクトリアのあるバンクーバー島へ近づき、ビクトリアの中心部の町並みを間近に見ながら港へ着水。移動手段自体が旅のひとつの醍醐味になる。

水上飛行機は最大12人乗りで、主に観光目的や州都ビクトリアへ通う議員や公務員などに利用されている。荷物の収容量が小さく、団体には不向きだが、個人旅行には最適。往復利用すれば1日でも充分ビクトリアを観光できる。費用面で割高となるので、片道水上飛行機、片道バス(途中、カーフェリーに乗船)といった組み合わせもおすすめだ。バスの場合はバンクーバー、ビクトリア共に市内の中心から発車、時間はトータルで3時間から3時間半程度かかる(交通事情による)。

またレンタカーがあれば、カーフェリーを利用して、ビクトリアのあるバンクーバー島をドライブすることができる。



可愛らしい水陸両用車で町と港をぐるぐる
吹きだすような演出も。子供たちは大喜びだ。

車はトランスカナダハイウェイのゼロマイル地点へ。ここからカナダ東岸まで、7800キロの長い道のりが続く。その距離は東京からバンクーバーまでの距離よりも長い。

観光ポイントを効率よくまわるので、時間が限られているときにユニークな体験を兼ね、一度利用してみるのもいいだろう。



トランスカナダハイウェイのゼロマイル地点



BC州議事堂。ビクトリアはBC州の州都。

英国の雰囲気漂うビクトリア バンクーバーとは違った体験を



優雅な「フェアモント・エンプレス」



日本人にも人気のアフタヌーンティー

© Fairmont Hotels & Resorts

バンクーバーほど都会ではないものの、州都としてにぎわいを見せるビクトリアは、英国の雰囲気漂う町。その代表例が港に面して建つ存在感のあるホテル「フェアモント・エンプレス」。カナダで由緒あるホテルを多く展開するフェアモント・ホテルズ・アンド・リゾーツを代表するホテルのひとつだ。

建物を覆うツタは秋には紅葉し、一面赤に様変わり。入口の両側に生えている木は枝がしだれ、まるで象かマンモスのような形をしているが、これは自然にこうなったという。ホテルで体験したいのがラウンジでのアフタヌーンティー。ス



歴史あるパブも(ガバメント通り)



スイーツ好きにはたまらない「ロジャーズ」のチョコレート

コーンやサンドイッチ、お菓子が乗ったトレイで英国式の本格的なアフタヌーンティーが楽しめる。

フェアモント自体、カナダ観光局が認定する「Canadian Signature Experiences(CSE)」のひとつに指定されている。

またメインストリートのガバメント通りには、お土産店が立ち並ぶ。チョコレートや紅茶など、ビクトリアのお土産として最適。英国風の町並みだけにパブもあり、ビール片手にフィッシュアンドチップスを味わうのもいい。日曜日には地元のアーティストたちが出店するマーケットも開催する。先住民アートを売るお店では、オイルを染み込ませた防寒用のカウチンセーターもチェックしたい。

州都ならではの施設も。ロイヤルBC博物館は、BC州の先住民に関する展示が充実。魚や動物、植物など、自然の造形をモチーフにしたアートは必見。想像力が駆り立てられる。ちなみにこの博物館もCSEの認定を受けている。



北米でサンフランシスコについて2番めに古い
チャイナタウンもある



ロイヤルBC博物館

元は碎石場?! 緑豊かな花咲き乱れる庭園 ブッチャート・ガーデン

ビクトリアへ訪れる日本人の目的のひとつが花。なかでもビクトリア近郊のブッチャート・ガーデンは、誰もが訪れる観光スポットだ。ここもCSEのひとつ。

ここの歴史はユニーク。ロバート・ビム・ブッチャート氏が経営するセメント工場へ供給する石灰岩の碎石場跡地を婦人のジェニー氏が整備して1904年に誕生した。

22ヘクタール(約7万坪)もある園内には、サンクンガーデンや日本庭園、ローズガーデン、イタリア庭園など、いくつかのエリアに別れる。特にサンクンガーデンは、碎石場の地形を活かしたダイナミックな眺めを楽しむことができる。

訪れた日はあいにくの雨模様だったが、逆に緑が水分をいっぱい受け止め、活き活きとしている印象を受けた。日本庭園で花開いているのはちょうどシーズンを迎えたブルー・ポピンズ。日本ではまず見ることができない珍しい青い花だ。

ここでも英国風のアフタヌーンティーを楽しめることができ、日本人観光客に人気。カフェでの料理も美味しく、おみやげコーナーには地元の工芸家の作品をはじめ、花の種なども販売されており、来場者でごった返していた。



サンクンガーデン。碎石場の窪地が見事な庭園に様変わり



「水も滴る」
ブルー・ポピンズ



ゴミ箱の上にも可愛いお花が

羽田からカナダへ！ ANA、羽田⇄バンクーバー線就航

羽田からのフライトが増便 世界へ広がるANAのネットワーク

日本を代表する航空会社として、日本国内をはじめアジア、そして世界へと幅広いネットワークを提供するANA。2014年3月30日より羽田空港からのフライトが増便、ますます便利になった。

例えばヨーロッパへは、新たにロンドン、パリ、ミュンヘンへのフライトが就航、フランクフルト線も増便、またアジアへはハノイ、ジャカルタ、マニラへ新規就航、シンガポール、バンコクへのフライトが増便となった。そして北米へはカナダ西海岸への唯一のフライトとして、羽田⇄バンクーバー線が新たに就航した。

仕事帰りでも間に合う バンクーバー線の便利な運航ダイヤ

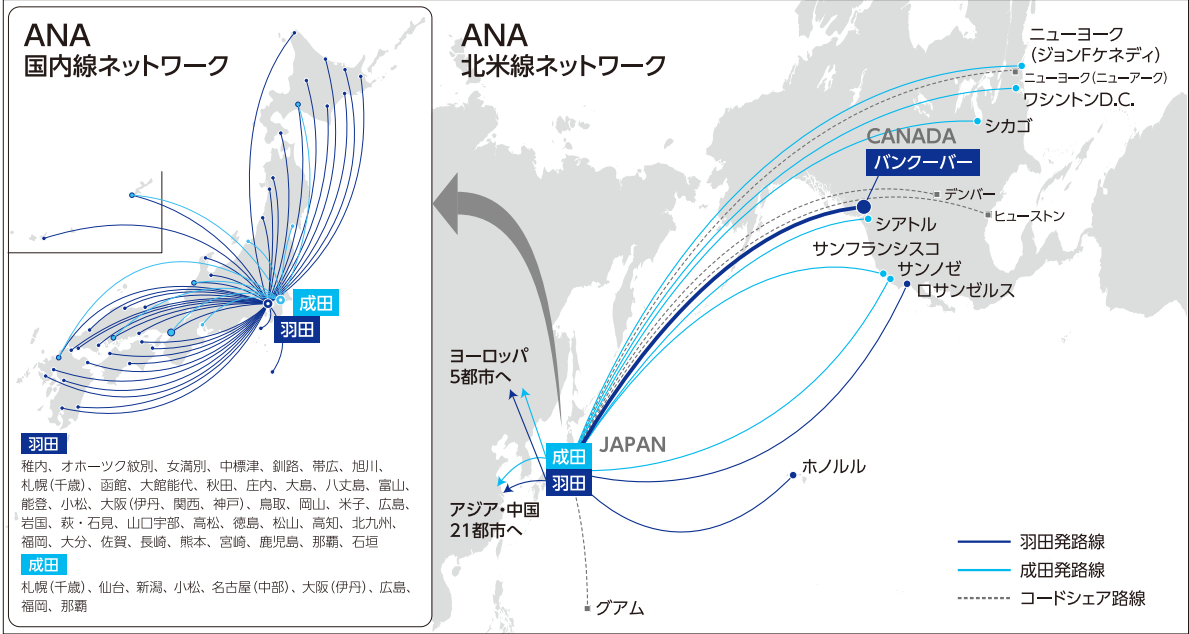
ANAの羽田⇄バンクーバー線は、毎日の運航で、羽田を夜に出発、バンクーバーに同日昼過ぎに到着する。仕事帰りでも羽田から出発できる便利な運航ダイヤだ。帰りも羽田空港に夜到着するので、ムダのないスケジュールを組むことができる。

この便利な運航ダイヤを活用すれば、週末を使ったバンクーバーへの「弾丸旅行」も可能。仕事を終えて金曜日の夜に羽田を出発、月曜日に羽田に戻る2泊4日のスケジュールを組めば、月曜を休むだけで、充分バンクーバーを満喫できる。

羽田⇄バンクーバー線 運航ダイヤ (2014年3月30日～10月25日)

便名	発地	出発	着地	到着
NH116	羽田	21:55	バンクーバー	14:55
NH115	バンクーバー	16:50	羽田	19:00 (翌日)

時間はすべて現地時間です。上記は2014年6月16日現在の情報です。
運航ダイヤは予告なく変更になる場合がございます。
詳しくはwww.ana.co.jpでご確認ください。



また成田から北米へのフライトを組み合わせると、より多様な旅行プランが組める。成田⇄シアトル線を使ったカナダ西部の周遊、さらにシカゴ、ワシントンDC、ニューヨーク(JFK)からはカナダ東部へのフライトに乗り継ぐことができ、カナダ全土をカバーする。

都心から近い、地方からも乗継できる 利便性の高い羽田発着

ANAの羽田⇄バンクーバー線の利用メリットは、やはり何と言っても羽田空港を発着する点。都心に近く、豊富なANA国内線ネットワークで国内各地から羽田空港へアクセス、スムーズにバンクーバーのフライトへ乗り継ぐことができる。地方に住んでいる両親と羽田で待ち合わせて一緒にカナダへ、といった旅行プ

ランを組むことも可能だ。

羽田空港での乗り継ぎも便利。ANA乗り継ぎ専用バス「ANA HANEDA CONNECTION」を利用すれば、国内線第2旅客ターミナルと国際線旅客ターミナル間の移動もスムーズ。また国際線の拡大に合わせて国際線ラウンジを新設・拡張。出発の搭乗口に応じて、近くのラウンジを利用し、出発前のひとときをゆっくり寛ぐことができる。

**日本で唯一！
最高評価「5スター」を2年連続で獲得**

ANAは、英国SKYTRAX(スカイトラックス)社が運営するエアライン・スター・ランキングにおいて、日本のエアラインとしては、唯一最高評価である「5スター」を2年連続で獲得、質の高いサービスを提供する。



ようこそ、五つ星の空へ。

すべての瞬間を、心地良い時間にすること。
それは、お客様の少し未来を想像すること。
予約、チェックイン、客室サービス、
食事、エンターテインメント。
お客様一人ひとりに心地良く過ごして頂くために
私たちは工夫し続けます。
日本で唯一の五つ星エアラインの旅に、
どうぞご期待ください。

www.ana.co.jp

ANA Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER

バンクーバーを楽しもう!



個人旅行でも「無理なく、無駄なく」 まち歩きできる旅のヒント

楽しみ方
その1

現地ツアーに参加する 「地元目線」で町を体感、一足伸ばして大自然も

地元の人がガイドする現地ツアーに参加すれば、「地元目線」でバンクーバーのいろいろな表情に出会える。一足伸ばせば、大自然の中でユニークな体験も。英語のガイドでも分かりやすいので安心。英語の勉強にもなる。

美味しいバンクーバーを「つまみ食い」 食の楽しさに触れるウォーキングツアー

大自然に囲まれたバンクーバーは、自然の恵みがいっぱい。最近「地産地消」の動きが盛んで、そんなバンクーバーの食の最前線を「つまみ食い」しながら体験できる。



参加したのは、地元で評判のお店をハシゴする欲張りなツアー。本場顔負けの熱々ジューシーな点心やオカナガン地方の美味しいワイン、



地元の新鮮な食材を使ったイタリアンや贅沢なサンドウィッチ、チーズやチョコレート、昔ながらの技法を守り、数多くの受賞歴を誇るジェラートなどを味わい、地産地消にこだわった高級スーパーにも立ち寄る。いろいろな味を「つまみ食い」できるので、移民の町ならではの多様な食文化に触れることもできる。ツアーを終えると、程よい満腹感を感じるだろう。

ガイドをするのは現役のシェフ。食材の由来や食習慣、レシピなど、詳しく解説してくれる。地元で話題のおすすめレストランを聞いてみるのもいい。グランビルアイランドのマーケットツアーやフードカート(屋台)巡りのツアーも人気だ。

Vancouver Foodie Tours
foodietours.ca



ダウンタウンを望む入り江でカヌー 先住民に伝わるエピソードや音楽を聴きながら

町のすぐそばに大自然が広がるバンクーバーでは、気軽にアウトドアを体験できる。カヌーを漕ぎながら、先住民コースト・セイリッシュ族の生活風習について学べるユニークなツアーがある。

まず、ダウンタウンからバスで30分の入り江沿いの公園へ移動。ここでコースト・セイリッシュ族のガイドがお出迎え。相手に手の甲が見えるよう両手を上げるのが歓迎のサインだ。



簡単な講習を受けて、いざカヌーへ。10人程度が乗れる大きさと、みんなで力を合わせて漕ぎながら前へ進む。心地よい風を浴びながら、ふと後ろを見ると、バンクーバーのスカイラインが太陽の光で輝いて見える。

途中、カヌーの上でガイドが先住民に古くから伝わるエピソードや歌を披露。漁業を業とし、自然を大切にしている心、またどこことなく懐かしさのあるメロディーに、日本人との近さを感じる。カヌーを漕いで疲れた後は、先住民のレシピで調理したサーモンのグリルやワイルドライスによる振る舞いも。意外と日本人にも合う味だ。

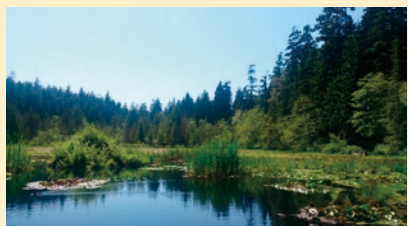
Takaya Tours
www.takayatours.com



温帯雨林をウォーキング 自然の近さを実感、絶景にも出会う

暑すぎず、寒すぎず、年間通じて気候が温暖なバンクーバーには、世界でも珍しい温帯雨林が広がる。その中をガイドの解説を聞きながらウォーキングできるツアー。

最初に向かったのがバンクーバーの中心に広がるスタンレーパーク。サーモンが産卵し、ビーバーが暮らす池で移動するカルガモの親子。「これが本当に町の中?」と思わずびっくりするほど、自然そのままの姿が残されている。ガイドの「いかにバンクーバーが



スタンレーパーク これが町の中にある

自然と結びついていくのが分かるはず」という言葉に納得する瞬間だ。

キャピラノ渓谷へ移動し、いざ温帯雨林の中へ。コケとシダで覆われた地表から高層ビルを思わせる巨木がそそり立つ。新緑の中、程よい湿気を感じながらのウォーキングは軽い運動に。なんといっても心が安らざりフレッシュできる。

さらにウエスト・バンクーバーのライトハウス・パークの温帯雨林の先に待っているのは、ダウンタウンを望む絶景。またガイドがこっそり教えてくれたビューポイントからは、遠くにバンクーバー島が。しばらく離れたくない気分にしてもらえるほどの美しい眺めだ。

Rockwood Adventures
www.rockwoodadventures.com



羽田からのフライトが増え、ますます行きやすくなったバンクーバー。「世界でいちばん住みやすい町」として知られるバンクーバーの居心地の良さを感じるなら、ぜひ滞在してまち歩きをするのがおすすめ。個人旅行でも「無理なく、無駄なく」楽しめる旅のヒントを紹介。

Vancouver

週末
2泊4日も
OK!

弾丸旅行で バンクーバーを「遊び倒す」

羽田⇄バンクーバー線の就航で可能となった「弾丸旅行」。バンクーバーだけなら2泊4日でも充分に楽しめる。例えば木曜日の会社帰りに羽田を出発して、日曜日に戻るスケジュールなら、金曜日に有休を取るだけでOK。現地ツアーや便利な足をうまく活用して、バンクーバーを遊び倒そう!

1~2日プラスして ビクトリアやウィスラーも

バンクーバーにプラスすれば、旅がさらに面白くなる。限られた時間をうまく活用するには、移動手段にこだわりたい。

例えばビクトリアへは、水上飛行機を使うと早い。飛行時間はわずか30分。しかもバンクーバーとビクトリアのどちらも町の中心に乗り場があるので、余計な移動時間を費やすことがない。また空から眺める町の風景や島々のパノラマは格別。もちろん、日本ではまず体験できない水上飛行機自体も旅の良い思い出となるはずだ。帰りはバス(途中、フェリー移動)を使うことで費用を抑えることもできる。

週末2泊4日バンクーバー「弾丸旅行」

1日目 (木)	(夜)仕事後に羽田へ直行 さあ、出発! (同日午後)バンクーバーに到着 ホテルにチェックインしたら、さっそく散策 &ディナー (バンクーバー泊)
2日目 (金)	一日思いっきりバンクーバーを満喫 (バンクーバー泊)
3日目 (土)	出発は夕方、時間があるので、郊外に足を 伸ばして大自然を体感 (夕方)バンクーバー出発 (機中泊)
4日目 (日)	(夜)羽田に到着 お疲れ様でした



水上飛行機の乗り場は町のど真ん中



空からバンクーバーの町並みを一望

楽しみ方
その2

観光に便利な「足」を活用する バンクーバーならではの体験も

観光ポイントを効率よくカバー

Vancouver Trolley / Big Bus

観光ポイントをうまく結んでいるので、一度乗ると町の概略がつかめる。Vancouver TrolleyとBig Busの2社があり、それぞれ15~20分間隔で走るので便利。1日または2日間乗り放題のチケットを買っていざ乗車。一度ぐらりと回って、町の大きさを実感した後は、気になる停留所で降りて、自由気ままに散策したい。



バンクーバーの観光ポイントを効率よくまわる



Vancouver Trolley



Big Bus 2階建てバスPink Busも走る

水面から見る街並みはまた格別

Aqua Bus (ミニフェリー)

入り江が深く入り込むバンクーバーで欠かせないのが水上交通。Aqua Busは、人気の観光スポット、グランビルアイランドやイエールタウンなどを結ぶ。たらい舟のような、何ともかわいらしい小舟に乗って、トコトコと揺られながら移動するのは実に風情がある。水面から見るバンクーバーのスカイラインも新鮮。ぜひ滞在中に一度は試したい。



郊外の大自然へも無料で移動

無料送迎バス

バンクーバー郊外には、キャピラノ渓谷やグラウス・マウンテンなど、気軽に大自然を体感できるスポットが点在する。こうした場所へは無料の送迎バスで行くことが可能。15分間隔で利用しやすく、キャピラノ渓谷ならわずか15~20分程度で移動できるのが驚き。自然の近さを感じることができるはずだ。



大切なこと: 人生が変わるほどの宝物がある (remember to breathe) ~自分に戻る瞬間~



グレイシャー・スカイウォーク

目の前に広がる圧倒的な大自然、それは人生が変わるほどの宝物。そんな宝物がいっぱい詰まったアルバータ州には、誰もが感動する貴重な体験が待っている。人気のカナディアン・ロッキーを訪ねる「アイスフィールド・パークウェイ」を軸に、同州のおすすめ素材や最新情報について紹介したい。



ジャスパー

夜に煌めく無数の星 冬だけの体験「アイス・ウォーク」

ジャスパー国立公園は、カナダ王立天文学協会から「ダークスカイ保護区」の認定を受ける星空観賞ポイントで、世界でも第2位の規模を誇る。保護区内は、夜間の照明調整が行われ、星空鑑賞にベストな環境を提供する。

闇夜に煌めく無数の星。まるで自分自身が大きな宇宙空間に浮いているかのような感覚だ。タブレットで星座の場所などを確認できるツールもあり、天体に対する興味をより一層駆り立ててくれる。

毎年10月(2014年は10月17~26日)には、「ダークスカイ・フェスティバル」が開催され、星空観賞会や子供向け教室、専門家による解説など、数多くのイベントを開催、初心者でも気軽に参加することができる。

また、冬だけの楽しみのひとつが凍結した川や渓谷を歩く「アイス・ウォーク」。ジャスパー国立公園マリナー渓谷のコースは所要1~2時間程度で、凍結した川の上など、比較的平坦な道を歩く。ガイド付きで歩く際は、靴底にすべり止めを装着、ガイドが安全確認を行いながらサポートしてくれるので安心だ。

断崖絶壁に囲まれた先に見えるのは凍結した滝。普段は豊富な水量で轟音とともに流れ落ちる滝が冬には様相を一変、静寂の中、あたかも時間が止まったかのような姿を見せてくれる。まさに自然が造り上げた芸術作品だ。「アイス・ウォーク」は、バンフ国立公園のジョンストン渓谷などでも楽しむことができる。



© Jeff Bartlett



グレイシャー・スカイウォーク

ついにオープン! スリルと感動あふれる「空中散歩」

今年の5月にオープンしたばかり。カナディアン・ロッキー期待の大型アトラクションとして、パークス・カナダの協力の下、ブリュースター・トラベル・カナダ社が進めてきた一大プロジェクトだ。

地上280mの高さに張り出した全長30mの強化ガラス製の遊歩道「ディスカバリー・ヴィスタ」は、カナディアン・ロッキーに囲まれたサンワプタ渓谷を見下ろす絶景ポイント。



© Brewster Travel Canada



まるで空に浮いている「空中散歩」のような感覚で、大自然と一体になりながらカナディアン・ロッキーの絶景を感じることができる、まさにスリルと感動あふれる体験だ。

ジャスパー国立公園のコロンビア・アイスフィールド・ディスカバリー・センターから、アイスフィールド・パークウェイ沿いの施設までは無料シャトルで移動、全長500mの「ディスカバリー・トレイル」の先に感動体験が待っている。太陽電池を取り入れるなど、環境にも配慮、車いすや幼児用バギーの乗り入れも可能で、バリアフリー対応も万全だ。

ブリュースター・トラベル・カナダ社が展開する、コロンビア大氷原グレイシャー・アドベンチャー、バンフ・ゴンドラ、レイク・クルーズなど、他のアトラクションと組み合わせたパッケージも設定しているので、ぜひチェックしたい (URL: <http://www.glacierskywalk.ca>)。

エドモントン

緑に包まれたカナダの「フェスティバル・シティ」

アルバータ州の州都で、カナダの「フェスティバル・シティ」として、芸術文化関連のさまざまなジャンルのイベントが年間通じて開催される。中心部を流れるノース・サスカチュワン川沿いは、北米で最長の都市型緑地で、都会にありながら、大自然の美しさに触れることができる。



世界遺産の「恐竜スポット」に注目!

カルガリーの東南に広がる「カナディアン・バッドランド」。ロイヤル・ティレル古生物学博物館のあるドラムヘラー、世界遺産で7000万年前の地層がむき出しの州立恐竜公園があり、多くの化石が発見された「恐竜スポット」として知られる。発掘体験にもチャレンジできる。



カルガリー

日本からの直行便が飛ぶゲートウェイ

常に活気を見せる大都市で、日本から直行便が飛ぶアルバータ州のゲートウェイ。1988年の冬季オリンピック開催地としても有名だ。「地上最大の屋外ショー」と言われる「カルガリー・スタンピード」は、カウボーイの祭典。ワイルドな西部開拓時代にタイムスリップさせてくれる。



© Calgary Stampede

詳しい情報は「トラベル・プランナー」で

アルバータ州観光公社は、日本語版の「トラベル・プランナー」を発行、同州の盛り沢山の旅行素材を紹介している。資料送付も送料着払で可能。またウェブサイト (<http://www.travelalberta.jp>) からダウンロードも出来る。



レイク・ルイズ

カナディアン・ロッキーの「宝石」 ターコイズブルーの湖に思わずため息



© Banff Lake Louise Tourism

宝石のように輝くターコイズブルーの美しい湖面。その色は、氷河から溶け出した岩粉によるもので、太古の歴史を感じさせてくれる。年間通じてアクティビティーが豊富。部屋から湖を臨むリゾートホテルでの優雅な滞在は、カナディアン・ロッキーの忘れられない思い出となるはずだ。

バンフ

ワールドクラスのリゾートで温泉に浸かる 可憐な高山植物に出会うハイキングも

雄大なカナディアン・ロッキーの山並みを一望できるワールドクラスのリゾート地は、温泉保養地としても人気。水着に着替えて、大きなプールのような湯船に浸ければ、心身ともにリラックスできるはず。優雅なリゾートホテルに滞在して極上のスパ体験も楽しめる。ぜひ大自然の恵みを身体全体で感じたい。



イエロー・レディース・スリッパ
© Banff Guide Service

また、カナディアン・ロッキーの大自然を感じるなら、ハイキングにも挑戦したい。毎年6~8月にピークを迎える高山植物は大きな見どころのひとつ。その種類は多彩で、フランクリン



ズ・レディース・スリッパやイエロー・レディース・スリッパなど、日本では珍しい希少種も多く自生しており、その可憐に咲く花の姿は、愛好家だけでなく、訪れる人みんなを楽しませてくれる。高山植物に詳しいガイドと一緒に歩けば、興味深いエピソードやその生態について解説を聞くことができ、より一層高山植物に対する関心が深まるはずだ。

思い出作ろう! 体験するカナダ



Canadian Signature Experiences

カナダだけでしかできないユニークな体験を、カナダ観光局では「Canadian Signature Experiences」として厳選しました。大自然をアクティブに体感し、カナダの人々との触れ合いも楽しむ。「Canadian Signature Experiences」は、カナダ全土で一生の思い出となる感動を、あなたのために提案します。

アルバータ州

スリルと感動あふれる「空中散歩」／グレイシャー・スカイウォーク
Brewster Travel Canada

今年5月にオープンしたばかりの新アトラクション。地上280mの高さに張り出した全長30mの強化ガラス製の遊歩道「ディスカバリー・ヴィスタ」から見るカナディアン・ロッキーの絶景。まるで空に浮いたような「空中散歩」の感覚で、大自然と一体になれる瞬間です。



ブリティッシュ・コロンビア州

人気の屋台を食べあるき バンクーバーの食の最前線に触れる
Vancouver Foodie Tours

バンクーバーで人気を集めるFood Truck(屋台)。人気屋台の味を食べ歩きながら、バンクーバーの多彩な食の最前線に触れることができます。お腹を空かせていざ参加!



オンタリオ州

水しぶきをいっぱい浴びながらナイアガラ滝壺に迫る
Hornblower Canada (Niagara Cruises)

滝壺の近くまで進む船の上で、滝の水しぶきをからだ全体で感じながら、マイナスイオンをたっぷり浴びて。ただ滝を眺めるだけでは得られない感動が待っています。



プリンス・エドワード島州

ロブスター漁に参加 その場でとれたてのロブスターをご賞味あれ
Top Notch Charters

漁に参加して、プリンス・エドワード島の素晴らしい風景を楽しみながら、とびきり美味しいロブスターを船の上で味わう、ロブスター好きにはたまらない体験が待っています。



ユーコン準州

カナダ極北の地ユーコンでオーロラ観賞
Northern Tales Travel Services Ltd.

美しい山々が連なるユーコン。その山影とオーロラの光との競演は、まさにここだけのダイナミックで神秘的な光景。8月末から9月末にかけては、紅葉と一緒に鑑賞できます。



ブリティッシュ・コロンビア州

温帯雨林の森の中で空中散歩 キャピラノ吊り橋／クリフウォーク
Capilano Suspension Bridge Park
バンクーバー郊外に広がる温帯雨林で森林浴。長さ137m、高さ70mのキャピラノ吊り橋はスリル満点! 断崖絶壁からせり出した遊歩道クリフウォークもおおすすめです。



ブリティッシュ・コロンビア州

四季折々の花が咲き乱れるブッチャートガーデン
The Butchart Gardens
オーナーのブッチャート夫妻が世界中から植物を取り寄せ、かつての石切場を見事な大庭園に変身させました。花だけでなく、夏の花火や冬のクリスマスイルミネーションも人気。



ブリティッシュ・コロンビア州

オカナガン地方のワイナリー巡り
Landsea Okanagan Tour
今や世界的に注目を集めるワインの産地。オカナガン地方には数多くのワイナリーが点在しています。ぜひ、お気に入りのワインを探しましょう。



アルバータ州

カナディアン・ロッキーで温泉!
Canadian Rockies Hot Springs
水着を着用して、屋外の天然温泉へ。一年中楽しむことができます。またホテルのスパ施設では、温泉成分たっぷりのトリートメントで身も心も美しくなりましょう。



オンタリオ州

超高層CNタワーで味わうスリル体験
CN Tower
高さ340mの展望台の外側を一周する「エッジウォーク」は、命綱だけで幅わずか1.5mのデッキを歩くエキサイティングなアトラクション。見るだけで思わず足がすくみます。



オンタリオ州

奇跡のワイン「アイスワイン」の贅沢
Inniskillin Winery
世界的にも評価の高いカナダのアイスワインは、氷に閉じ込められたブドウから作られます。舌を傾けながら、その独特の甘さと濃厚で贅沢な味わいを楽しみましょう。



マニトバ州

ツンドラ・バギーに乗って永久凍土の大地でシロクマと触れ合う
Frontiers North
ハドソン湾に面した「シロクマの都」チャーチルで、間近にシロクマと触れ合うツアー。愛くるしい姿の赤ちゃんシロクマ。中には、バギーにすり寄る好奇心旺盛なシロクマも。



ニューファンドランド&ラブラドル州

神秘の巨大氷山に迫るボートツアー
Iceberg Quest Ocean Tours
氷山の合間から顔に吹きつける冷たい空気を感じながら、爽快なクルージングを楽しんでいると、突然巨大な氷のモンスターが目の前に! ホエールウォッチングも楽しめます。



ノースウエスト準州

大自然の素朴な贅沢さの中でオーロラを堪能
Blachford Lake Lodges
地元の味覚に舌鼓を打った後は、ホットタブの湯船に浸かりながら、オーロラが天空の花火のように華やかに揺らめく様子を楽しみましょう。

思い出作ろう! 体験するカナダ

Canadian Signature Experiences



ブリティッシュ・コロンビア州、アルバータ州

豪華列車「ロッキーマウンテン号」で車窓から味わうロッキーの絶景
Rocky Mountaineer



ブリティッシュ・コロンビア州

先住民文化に触れるハイダ・グアイ(クイーンシャーロット島)の旅
Maple Leaf Adventures



ブリティッシュ・コロンビア州

野生のグリズリーベアーに出会う旅
Knight Inlet Grizzly Tours Ltd.



ブリティッシュ・コロンビア州

ウィスラー・ブラックコムで空中尾根散策
Whistler Blackcomb



アルバータ州

サイドカーから氷河を一望 コロンビア大氷原
Jasper Motorcycle Tours



アルバータ州

大平原の風を感じる世界遺産ヘッド・スマッシュ・イン・バッファロー・ジャンプ
Head Smashed In Buffalo Jump World Heritage Site



アルバータ州

恐竜発掘の聖地バッドランドで化石探索
Dinosaur Provincial Park UNESCO World Heritage Site



アルバータ州

大平原、氷河、紺碧の湖 カナディアン・ロッキーの大自然を肌で感じる乗馬の旅
Brewster Mountain Pack Trains



ケベック州

北米最大級の冬の祭典ケベック・ウィンター・カーニバル
Quebec Winter Carnival



ケベック州

ジャズファン垂涎 モントリオール国際ジャズフェスティバル
Montreal International Jazz Festival



ケベック州

列車で巡る風光明媚なシャルルボア沿岸
Groupe Le Massif inc.



ケベック州

カナダの歴史に思いを馳せるカナダ歴史博物館(旧カナダ文明博物館)
Canadian Museum of History



rs & Charters Ltd.
サン湖畔のエリアに、大小160以上のワイナリーが
てみては?



只な味わいを堪能
凍ったブドウから造られる貴重なもの。製造秘話に
味わいに酔いしれてみては。



ロラを見る
に身をゆだね、空を仰げば地平線いっぱいに広が
きます。



ブリティッシュ・コロンビア州
神秘の森で幸運の「スピリット・ベア」に出会う旅
Bluewater Adventures
約1週間のネイチャー・クルーズは、いつまでも忘れられない驚きと発見の連続。運が良ければシナ
モン色のカーモードベア(別名スピリット・ベア)に出会えるチャンスも。



オンタリオ州
ナイアガラの滝に空から極限まで迫るヘリツアー ワイナリー体験も
Niagara Helicopters Limited
ナイアガラの滝の全容を知るには空からが一番! 豪快に渦巻く激流と周りののどかな風景のコント
ラスト。ヘリから降りるとそこはワイナリー。極上ワインと絶品料理に舌鼓。



カナダ全国 フェアモント・ル・シャトー・フロントナック(ケベック州ケベックシティ) © Fairmont Hotels & Resorts
王族・映画スターに愛された歴史と気品あふれるホテルを味わう
Fairmont Hotels and Resorts
おとぎ話に登場しそうなお城、都会の喧噪とは無縁のロッジ、絶景や感動の風景の中で独特の雰囲気
を放つホテルひとつひとつがカナダの発展に大きな役割を果たしてきました。



アルバータ州
コロンビア大氷原 1万年前の氷河に触れる究極体験
Brewster Transport Canada
直径1.5mの巨大タイヤで走る雪上車から降りて、1万年前にできた全長6km、幅1kmの氷河の上
へ。真夏でも冷たい風が吹きつける氷河の上で、太古の昔に思いを馳せてみては。



ケベック州
馬車がお出迎え ケベックの森でメープルシロップ体験
Sucrerie de la Montagne
カエデの樹液から作られるメープルシロップ。カエデの森は、春の収穫シーズンには甘い香りで包ま
れます。美味しい料理と共に、温かいケベック流おもてなしを。



カナダ全国
VIA鉄道で行くカナダ横断の旅
VIA Rail Canada
目覚めれば雪に覆われた雄大なロッキーの山並みが。美味しい朝食を堪能したら、ぜひ展望車へ。
360度のパノラマが楽しめます。優雅な列車の旅で真のリラックス体験を。

periences



ブリティッシュ・コロンビア州
世界屈指のワイナリー、ミッション・ヒルでくつろぐ一日
Mission Hill Family Estate



マニトバ州
シロイルカ、シロクマとの触れ合い バードウォッチングも
Churchill Wild



ケベック州
ケベックの歴史と美食を巡る散策ツアー
Tours Voir Quebec



ブリティッシュ・コロンビア州
森と水に囲まれた静寂のリゾートで、自然の懐の深さを知る
Nimmo Bay Wilderness Resort



アルバータ州
「カルガリー・スタンビード」でカウボーイ魂に触れる旅
Calgary Stampede



オンタリオ州
グループ・オブ・セブンスもイヌイト・アートも収蔵! 五感で楽しむカナダ国立美術館
National Gallery of Canada



プリンス・エドワード島州
プリンス・エドワード島で潮干狩り! 巨大ホッキ貝を探そう
Tranquility Cove Adventures



ブリティッシュ・コロンビア州
小型船で爽快にホエールウォッチング! 温泉も楽しめる
Remote Passage Marine Excursions



アルバータ州
大自然とひとつになるヘリ・ヨガ・ツアー
Rockies Heli-tours



オンタリオ州
「ジャーニー・ビハインド・ザ・フォールズ」でナイアガラの滝を裏側から見学
Niagara Parks Commission



ニュー・ブランズウィック州
大自然の驚異! 干潟達世界一のファンディ湾、海の芸術ホープウェル・ロック
「Roads to Sea」Guided Tour



ブリティッシュ・コロンビア州
ヘリで空から爽快にアクセスする夏のアドベンチャー体験
CMH Heli-Skiing & Summer Adventures



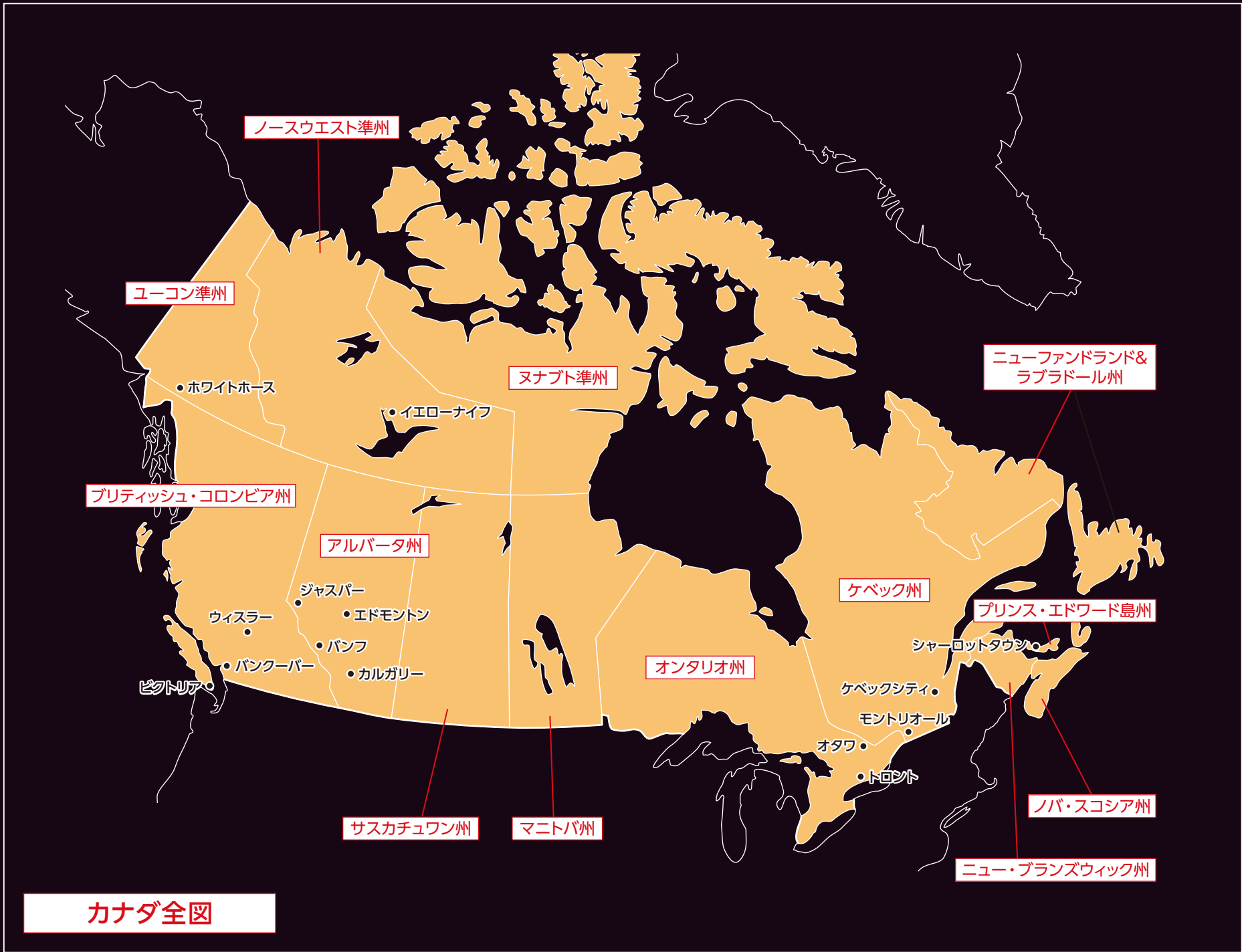
アルバータ州
氷の神秘 ジョンストン渓谷アイスウォーク
Discover Banff Tours



ケベック州
氷点下の世界 ロマンチックな氷のホテルに宿泊
Ice Hotel Canada



ヌナブタ準州
極北のワイルドライフとイヌイト文化を体感するクルージング体験
Adventure Canada



プリティッシュ・コロンビア州

世界的にも貴重な温帯雨林の中をウォキング
Rockwood Adverntures
船と水上飛行機を使ってバンクーバーの北西、ボーエン・アイランドへ。



プリティッシュ・コロンビア州

自分と自然のつながりを再確認できる極上リゾート
Echo Valley Ranch and Spa
山に囲まれた谷間に広がる牧場に滞在し、自然をまるごと体感。本格的スパ施設も。



アルバータ州

カナディアン・ロッキーでヘリ・ハイキング
Alpine Helicopters Ltd./White Mountain Adventures
ヘリコプターで一気に山の上へ。降り立てば、ロッキーの雄大な山並みが目の前に。



オンタリオ州

1000の島が浮かぶ川でリバークルーズ
1000 Islands Rockport Boat Line
セント・ローレンス川をクルージング。途中、お城や世界最小の国際橋を眺めながら。



ニュー・ブランズウィック州

ロブスターをキャッチ! その場で味わおう
Shediac Bay Cruises
世界で最もジューシーなロブスターを。解説を聞きながらロブスター漁も体験できます。



ユーコン準州

ユーコンの大自然を思う存分満喫
Boréale Biking
遊牧民スタイルのユルトをベースに、ハイキングやサイクリング、カヌーで自然を満喫。



ノースウエスト準州

世界遺産の国立公園に建つエコ・ロッジに滞在
North Nahanni Naturalist Lodge
野生動物の宝庫で、アウトドアも充実。先住民デネ族の文化に触れることもできます。



ヌナブト準州

いざ、北極圏へ! 一角獣とホッキョクグマに出会う
Arctic Kingdom Polar Expeditions
極寒の地で暮らすイヌイットをガイドに。絶景と野生動物たちがあなたを待っています。

さらに詳しく知りたい方はウェブサイトまで!
www.keepexploring.jp

各体験の内容について詳しく紹介しているだけでなく、必要な画像や動画もインストールできます。新しいカナダ旅行の情報源としてぜひ活用ください。
またカナダ観光局(CTC)では、公式facebookページでも最新の旅の情報を提供しています。ぜひ一度ご覧ください。



カナダ観光局公式facebookページ
www.facebook.com/canadaexplore

デルタ航空で行くカナダ 充実のネットワークとサービス



カナダ各地へスムーズにアクセス 注目のプリンス・エドワード島へも

日本からアメリカへ最大級の便数を誇るデルタ航空なら、アメリカ経由でカナダ各地へスムーズにアクセスできる。アメリカの航空会社でありながら、カナダへのネットワークも充実、空港での乗り継ぎも分かりやすい。

例えばカナダ西部へは、シアトルまたはミネアポリス経由が便利。人気のカナディアンロッキーもカルガリー、エドモントンへのフライトを利用すれば、周遊が可能だ。またシアトルは、羽田発のフライトも利用できるほか、バンクーバーやウィスラーのあるブリティッシュ・コロンビア州から近いので、車やバス、鉄道やフェリーなどの交通手段を使って直接入ることもできる。

カナダ東部へは、ミネアポリス、デトロイト、ニューヨーク(JFK)経由で。特にオタワやモントリオールなど、日本からの直行便がない都市への乗り継ぎは便利。ドラマで注目の小説「赤毛のアン」の舞台、プリンス・エドワード島へも、ニューヨーク経由で直接アクセスできる(夏期スケジュール)。またデトロイト経由なら、カナダへの直行便がないセントレア(中部)発のフライトも利用可能だ。

「ビジネスエリート」 全便フルフラット、同社だけのアメニティも

デルタ航空のビジネスクラス「ビジネスエリート」は、太平洋路線の全便がフルフラットベッドシート。180度リクライニング、通路へのダイレクトアクセス、プライバシーの確保、大型モニターなど、最上級の機内環境で長いフライトでも快適に過ごせる。

同社だけのアメニティにも注目。寝具にはウェスティンホテルがデルタ航空専用に開発した「ヘブリーベッド」製品(写真)を使用。機内でもぐっすり



(イメージ)



アメニティキット

懐石風和食

眠れるよう、快適な寝心地を追求した。

またアメニティキット(写真)には、日本でも人気の「Tumi(トゥミ)」のバッグに、ニューヨークのスキンケアブランド「MALIN+GOETZ(マリン・アンド・ゴッツ)」のプロダクトを起用する。

食事も好評。日本発便の機内食メニューは、日本人総料理長が監修、特に懐石風和食(写真)は事前予約がおすすめだ。またオンデマンドエンターテインメントは、映画や音楽、ゲームなど、多彩なコンテンツを楽しめる。

「エコノミーコンフォート」 ワンランク上のゆとりを

「エコノミーコンフォート」(写真)は、エコノミークラス前方に配置、エコノミークラスの座席より最大1.5倍のリクライニングと最大10cm強の広い足回りでワンランク上のゆとりを提供する。優先搭乗のサービスもあり、長いフライトだからこそ、その利用価値は高い。

手頃な追加料金で利用が可能で、予約はホームページ「delta.com」の他、空港のチェックイン機や予約センターでも受け付ける。なお、Mクラス以上の予約クラス、マイレージ・プログラム「スカイマイル」のメダリオン会員であれば、追加料金が割引または無料となる。



エコノミークラスに「スリープキット」

長距離国際線のエコノミークラスで新たに「スリープキット」(写真)の配布がスタートした。アイマスクと耳栓が入っており、食後は水のペットボトルも配られる。今年の夏までには、機内エンターテインメント用のイヤホンをグレードアップ。今後もデルタ航空は、全てのクラスにおいて高品質なサービスの提供に努めていく方針だ。



配られる。今年の夏までには、機内エンターテインメント用のイヤホンをグレードアップ。今後もデルタ航空は、全てのクラスにおいて高品質なサービスの提供に努めていく方針だ。



あなたのために、 世界を少しでも小さくします。

出張で。休暇で。もしくは誰かと出会うために。デルタ航空は、様々なニーズにお応えるために、日本から世界各地へ国際線を運航しています。成田、羽田、名古屋、関空、福岡からの国際線は毎日30便以上。アメリカ本土7都市をはじめ、アジア6都市、世界300以上の都市へお連れします。日常から離れたくなったら、ホノルル、グアム、サイパン、パラオのビーチリゾートもおすすめです。Keep Climbing - 行きたい都市にあなたをお連れする空の旅のパートナーとして。デルタ航空は日本からのネットワークをさらに充実させていきます。

DELTA.COM



カナダの大自然、グルメ、エキサイティングな感動体験ができるドライブの旅

自由きままに、自分のペースで楽しめるドライブの旅。カナダならではの感動体験を、自由自在にアレンジできるのがレンタカーのメリットだ。そこで見た風景、感じた風、体験したことは、一生の旅の思い出に。カナダは大自然だけでなく、グルメやエキサイティングな体験も楽しめる。人数やシチュエーションに合わせて車種を選び、自分だけのカナダ体験が作れるドライブルートを紹介したい。



© Canadian Tourism Commission

ドライブコース 1

トロントを起点に、秋にはカエデの葉が真っ赤に色づき、新緑の季節には鮮やかな緑を堪能できる「メイプル街道」を通り、カナダの旅行の必見スポット、ナイアガラの滝へ。カナダならではのアウトドア・アクティビティが体験できるブルー・マウンテン・リゾートを目指し、グルメ、ショッピング、そしてカナダの自然の雄大さを体感できるコース。



トロント出発

カナダ最大の都市「トロント」は、世界100カ国以上の文化が集まるマルチカルチャー・シティ。美術館や博物館などが充実しているほか、高さ553mのCNタワーは一番人気の観光スポット。カナダならではのナチュラル＆新鮮な食材を活かした、世界各国の料理にも出会うことができる。



© Canadian Tourism Commission



© Canadian Tourism Commission

トロント・プレミアム・アウトレット

トロントの西、約45キロのところにあるハルトンヒルズの町に、昨年夏「トロント・プレミアム・アウトレット」がオープン。85ブランドを超える高級アウトレットモールで、カナダでは初出店。レンタカーなら荷物を気にすることなく買い物三昧！



ナイアガラの滝

世界3大瀑布のひとつ「ナイアガラの滝」。膨大な水量と地底から響いてくるような轟音は見る者を圧倒する。また、この一帯はカナダきってのワインの産地。稀少ワインに出会えるのも魅力。地元の食材を活かしたヘルシーで独創的な「ナイアガラ・キュージュー」もお楽しみあれ。



© Canadian Tourism Commission



© Canadian Tourism Commission

ブルー・マウンテン・リゾート

サイクリング、ゴルフ、ハイキング、乗馬など、あらゆるアウトドア・アクティビティが体験できるリゾートエリア。山の麓には、コンドミニウムやショップなどが集まるリゾートビレッジが広がっている。またこの一帯はオンタリオきってのりんごの産地。グルメ街道「アップル・パイトレイル」では、リンゴを使ったスイーツを出す地元のレストランやベーカリーなど、スイーツのハシゴを楽しもう。



© Canadian Tourism Commission

ドライブコース 2

バンクーバーを起点にBCフェリーでバンクーバー島へ。州都ビクトリアと、その周辺の自然派ワイナリーやハーブ園、手作りチーズの店などに立ち寄り、新鮮なシーフードからワインなど、おいしいものにたくさん出会う、バンクーバー島の周遊の旅。



1



バンクーバー出発

BCフェリー(カーフェリー)でバンクーバー島へ

© Destination BC / Tom Ryan

2

ビクトリア

英国の影響が色濃く残る街並みには花が溢れ、別名「ガーデンシティ」と呼ばれる。カナダ人にとっても「いつか住んでみたい場所」として1位の人気を誇る憧れの場所。



© Destination British Columbia

3

ダンカン

先住民の文化が色濃く残る町。トーテムポールが並び町並みを徒歩で巡るツアーも楽しめる。先住民族の歴史や生活用具などを展示している「カウチン・カルチャーセンター」は必見。カウチンセーターの製作過程や先住民の踊りの見学のほか、伝統的なサーモン料理を味わうこともできる。



© Aboriginal Tourism Association of BC

4

カウチンバレー

カウチンセーターなどで知られる先住民の豊かな歴史を背景にしたユニークなコミュニティがある場所。丘陵地帯にはワイナリーや手作りチーズの店、美味しいベーカリーなども点在しているので、のんびりと散策するのがおすすめ。



© Destination BC / Andrea Johnson

5

シュメイナス

地元アーティストたちが描いた壁画で有名なこじんまりとした可愛い町。町のあちこちの建物には大胆な絵が描かれ、街全体がまるでギャラリーのよう。観光馬車もあるので、のんびりとアンティークショップやブティックをのぞきながら、開拓時代の薫りの残る町を楽しめる。



© Destination BC / Adrian Dorst

6

ナナイモ

開拓時代は交易所、続いて炭鉱の町として栄えた場所で、今なお当時の面影が残る町。ここで有名なのが、チョコレートとカスタードが層になった「ナナイモバー」と呼ばれる濃厚なお菓子。この辺りで働く炭鉱夫がエネルギーを確保するために食べたのが始まりとされている。



© Destination BC / Tom Ryan

7

BCフェリーでバンクーバーへ戻る

自由旅好きのお客様にはレンタカーがオススメです。

エイビスレンタカー

予約センター: 0120-31-1911 www.avis-japan.com

AVIS®

オンタリオ州

Ontario

初心者も気軽に、本格的に楽しめるのが魅力 森と湖を舞台に憧れのアウトドア体験を

アウトドアブームが定着する中、海外旅行にもアクティブな体験を求める旅行者が増えている。オンタリオ州ではハイキングやカヌー、カヤック、キャンプなど、カナダならではのアウトドアを、様々なレベルで楽しめるプログラムが充実。都市やリゾートをベースに、初心者が気軽に楽しむ、そんなソフトアドベンチャー体験も可能だ。

都市周辺でも ダイナミックな自然体験

カナダ最大の都市トロントでも、アウトドアスポーツは身近だ。たとえばダウンタウンからフェリーで10分程度のところにあるトロント島や、街のすぐ東に広がるザ・ビーチなどでは、オンタリオ湖でのカヌーやカヤック、そして最近人気のSUP(スタンドアップパドルボード)などのレッスンやレンタルが盛んに行われており、旅行者も気軽に体験可能だ。



摩天楼をバックにオンタリオ湖でSUP

また首都オタワでも、市内には無数の遊歩道やサイクリングルートが整備されており、車で20分ほど走れば本格的ハイキングも楽しめるガティノー公園など自然地帯も広がる。都会派はもちろん、アウトドア派も十分楽しめるのが魅力だ。

雄大な自然の中で 本格的アウトドアも

もちろん、オンタリオならではの壮大な森や湖を舞台に、よりワイルドな自然体験を求める旅行者にも選択肢は多い。州内には、6つの国立公園、そして330の州立公園が点在し、自然の中での様々な遊びを提案している。夏のスポーツだけでも、ハイキング、トレイルランニング、カヌー、サイクリング、ロッククライミング、フィッシングなど多様だ。キャンプ場も、テント泊からモーターホーム用まで、様々なスタイルで



水と緑を満喫するオンタリオならではのアウトドア



アルゴンキン州立公園などでのカヌーは大人気

楽しめるよう設備が整えられている。

また冬も、スキー、スノーボード、スノーシュー、クロスカンリースキー、犬ゾリなどが可能。さらに公園外にはスノーモビル専用トレイルが、総距離7万キロ以上も張り巡らされ、スノーモビルだけで何日も旅ができる規模だ。

また、高級別荘地帯として知られるマスコーカ地方や、一大リゾート地であるブルー・マウンテンなどでは、優雅なホテルに滞在し、アウトドア



マスコーカのJWマリオット・ザ・ルソー

体験とグルメ、ゴルフやスパなどを合わせて楽しむことも可能。ネイチャーヨガ、星空観察、野生動物観察など、体力、年齢を問わずに楽しめるソフトなアドベンチャーも充実している。

注目の先住民体験も

先住民の文化体験とアウトドア体験を合わせて楽しむのもオンタリオならではの。たとえばヒューロン湖の東、ジョージアン・ペイに浮かぶマニトウリン島では、先住民ガイドとともに彼らの伝説の残る自然の中でハイキングやカヌーなどを楽しむプログラムが好評だ。伝統的なドラム作りや、先住民のテント「ティーピー」での宿泊など、他にはない体験が豊富に用意されている。



大きなパウワウもあるマニトウリン

WEB SITE アウトドア情報を特集したスペシャルサイト

オンタリオ州では、オンタリオ州のアウトドアを紹介したスペシャルサイト「アウトドアオンタリオ」を提供している。春から秋、そして冬までカナダならではのダイナミックなアクティビティが満載。おすすめのスポットや旅行者が楽しむための基本情報なども掲載。

アウトドア **オンタリオ** www.ontariostyle.com/outdoor

NEWS

注目のアトラクションや施設が続々と新登場！

ナイアガラ Niagara Falls

滝へのクルーズが一新、
新メニューでRVC開催も



カタマランで滝つぼまでクルーズ

ナイアガラの最大のアトラクションとして人気を博してきたクルーズ「霧の乙女号」が、今年から「ホーンブローワー・ナイアガラ・クルーズ」に一新。より大型の700人乗りカタマランボートを使って滝つぼへのクルーズを行う他、1時間のサンセット・カクテルクルーズや、夜のイルミネーションや花火も楽しめるクルーズも実施。これにより夜の滝も楽しめるようになった。

また、ナイアガラには新たに「スコシアバンク・コンベンション・センター」も完成。2015年のカナダ・トラベルマート「RVC(ランデブーカナダ)」はここで開催予定だ。



コンベンション・センター内部

トロント Toronto

話題の水族館オープン、
空港への鉄道も開通



巨大水槽でサメやマンタなども見られる

2013年10月、トロントのシンボルCNタワーのすぐ近くに「リブリーズ・カナダ水族館」がオープンした。カナダ最大のインドア水族館で、五大湖や大西洋、太平洋、北極海などカナダの水辺をテーマにした「カナディアン・ウォーター」をはじめ、熱帯の海やサメ、マンタ、クラゲなどのゾーン、そして水槽などの維持装置を見学できる「ライフサポート・システム」まで8つのギャラリーがあり、それぞれ工夫を凝らした展示がされて、話題となっている。

またトロントでは、ピアソン国際空港からダウンタウンのユニオン駅をつなぐ鉄道「ユニオン・ピアソン・エクスプレス」が2015年に開通を予定している。これにより、空港とダウンタウンが直通となり25分でアクセスが可能となる。2015年夏には北南米の一大スポーツイベント「パンナムゲーム」がトロントで開催予定で、これに先駆けての開通を目指している。

オタワ Ottawa

FIFA女子ワールドカップの
試合会場に

2015年のFIFA女子ワールドカップは、6月6日～7月5日の期間、カナダでの開催が決定しているが、その会場のひとつにオタワの「TDプレイス・スタジアム」が選ばれている。同施設は現在改築中で、24000シートを備えたビッグスタジアムとなり



TDプレイス・スタジアム Photo: Ottawa Tourism

2014年に秋に完成予定。カナディアン・フットボールリーグのオタワ・レッドブルックス、北米サッカーリーグのオタワ・フューリーFCの本拠地としても使われるほか、ビッグコンサートなどの会場としても、期待されている。

WEB SITE 大好評! オンタリオスタイルのグルメマップ

オンタリオ州観光局監修のウェブサイト「オンタリオスタイル」では、トロント、ナイアガラのおすすめレストランを紹介したグルメマップを作成し、旅行会社を通じて配布している。折り畳み式のコンパクトサイズで、主要アトラクションなどもわかりやすく記載されており、旅先で使い勝手が良いと好評。同ウェブサイトの特集ページ「おいしいオンタリオ」からPDF版のダウンロードも可能。また2014年9月には、新たにオタワのマップも発行予定。

ONTARIO Style **オンタリオ** www.ontariostyle.com/oishi

RVC2014レポート 各観光局、サプライヤーの動き

羽田線の就航やドラマの露出で盛り上がりを見せるカナダへの旅行需要。今回、ブリティッシュ・コロンビア州のバンクーバーを舞台に、例年以上の規模で開催された「RVC2014」。出展した各州／準州観光局及びサプライヤーの動きをまとめてみた。

「RVC2014」会場の様子

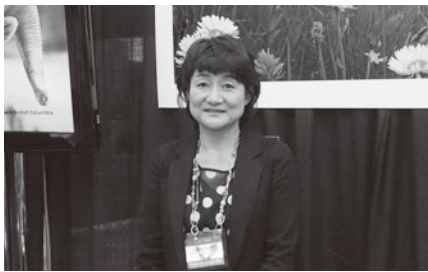
ブリティッシュ・コロンビア(BC)州

ANA就航で需要が好調、地方発にも期待 オカナガン地方、夏のウィスラーなど、商品も多様化

全日空(ANA)の羽田⇄バンクーバー線就航により、需要の伸びに期待が集まるBC州。BC州観光局日本地区マネージャーの菊地友子氏は「4月以降の数字に表れると思うが、旅行会社からのヒアリングによると、会社によっては前年同月比で2ケタで伸びているところも多く、これが夏まで続く状況にある」と語る。羽田便を使った地方発の需要も「実際には同日乗り継ぎできない地方もあるが、全般的に羽田経由ということで、西日本からの関心は高い」と反応は良い。

商品面では、春の花のシーズンの商品が「かなり定着してきた」とのこと。これから夏にかけてはロッキーへのバス周遊が増加。特に途中ワインの産地として人気が高まるオカナガン地方へ立ち寄るケースが増えており、菊地氏は「オカナガン地方への訪問者数は急成長している。弊社ウェブサイトの検索ワードでもオカナガンが上昇している。オカナガン地方は穏やかな景色が広がり、バンクーバーやカナディアン・ロッキーの山々とは違った景色の変化を楽しめる」と魅力を語る。

また昨年よりプロモーションに力を入れてきた夏のウィスラーも「長期滞在をパッケージ化するなど、旅行会社で新たな動きが出ており、実際に消費者から良い反応を得ていると聞く。今後も継続して夏のウィスラーの魅力を訴求してきた



菊地氏

い」考えた。

ほかに菊地氏は、バンクーバーやビクトリアの滞在型旅行を提案。「英語による現地ツアーは、良い勉強の機会となり、日本人の利用も増えている」とのこと。またビクトリアは「バス／フェリーを利用すると、ビクトリア滞在はわずか3時間、たっぷり楽しむにはぜひ1泊を推奨したい」とアピールする。

MICEについても観光局では、マイクロサイトで旅行会社のセールスをサポート。オーガナイザーへのプレゼンテーション用にそのまま使えるパワーポイントの資料を用意する。特にバンクーバーなどの主要都市では「数千人から20～30人のグループまで幅広く対応できる」のが強み。また、BC州にとって教育旅行は特に重要なマーケットであり、直行便が毎日3便という強みを生かして、引き続き旅行会社と共にバックアップしていく。

アルバータ州

新ブランディングで「行く理由」を提案 一般消費者向けにもキャンペーン

アルバータ州観光公社は、2020年までに観光産業の消費金額を、現在の年間78億カナダドルから103億カナダ億ドルに引き上げる目標を掲げる。アルバータ州観光公社チーフ・マーケティング・オフィサーのロイス・チュイン氏は「目標達成のためには、戦略的なマーケティングに基づくプロモーションとプロダクト自体の進化が必要だ」と答える。

観光公社は、2011年秋に新しいブランディング「remember to breathe」をスタート。プロモーション映像が世界最大のトラベルトレードショーのひとつ「ITBベルリン」で賞を獲得するなど、話題を集めた。チュイン氏は「感情に訴えかける内容。『今すぐ行きたくなる』気分させるのが狙いだ」とコメント。さらに観光公社市場開発担当ディレクターの小西美砂江氏は「行く理由を提供するのがブランディングの主旨だ」と語る。

またブランディングを展開する上で重要となるのがチームワーク。チュイン氏は「州にある各地域の観光局やサプライヤー、また日本マーケットにおいてはCTCが推進する『チームカナダ』との連携がブランディングを推進する上で重要な役割を担う」と重視する。

プロダクトの進化においても「新しい世代に向けたプロダクト自体の進化が必要。何を求めているのか、常に耳を傾け、提案していかなければならない」(チュイン氏)とその重要性を指摘する。

2020年までの目標を実現するにあた



左から小西氏、チュイン氏

り、日本マーケットにおいては「2011年比でおよそ22%の訪問者数増が必要。需要は戻っている実感があり、特に成田⇄カルガリー線の維持は目標達成の上で、必要不可欠だ」(チュイン氏)と強調、エアアクセスの大切さを語る。

観光公社では、今後一般消費者向けのキャンペーンとして「私の宝物」キャンペーンやFacebook、ブロガーを活用したプロモーションを展開する計画。全日空(ANA)の機内モニター上のCMやビデオプログラムによる訴求も予定する。

日本市場へのメッセージとして、チュイン氏は「観光公社のブランディングは、旅行会社の皆様にとっても強力なマーケティングツールとなるはず。ぜひとも活用して頂きたい」とアピール。さらに「今後も『チームカナダ』への協力をベースに、日本市場に対しトレードの面において引き続き投資を継続していく」と強調した。

ユーコン準州

オーロラに代わる 「カナダの次なる自然」を訴求

日本からの旅行者数について、ユーコン準州政府観光局アジア太平洋地区マーケティングマネージャーのジェシカ・ラフェン氏は「2012～2013年のオーロラシーズンに2000～3000人とピークを迎えた。2013～2014年のシーズンはこれより若干減の見通し」と語る。

オーロラで日本からの需要が増え、観光局では「これまでの『エマージング・マーケット』から『セカンダリー・マーケット』に、日本市場の位置づけを格上げした」とのこと。カナダ、ドイツ、アメリカの「プライマリー・マーケット」に次ぐ位置づけで、英国やオーストラリアと肩を並べる。ラフェン氏は「ユーコン準州への訪問者数は年間35万人。日本のマーケット規模は小さいが、アクセスが良く、現地サイドの関心も高い。今後は予算を増やし、積極的なプロモーションを展開したい」と意気込む。

日本市場に対しては、今後オーロラに代わる素材として、夏や秋の大自然やアウトドア、ソフトアドベンチャーなどを提案していく考え。ラフェン氏は「年間35



左からラフェン氏、高橋氏

万人のほとんどが極北のユニークな自然を求め、夏や秋に訪れる。オーロラはひとつの観光素材に過ぎない」と語る。またトレードセールス担当の高橋由香氏は「カナダの『次なる自然』として、ユーコンの素晴らしい自然を提案したい。オーロラの需要は維持しながら、本当のユーコンの良さを紹介していきたい。旅行会社からも『オーロラはユーコンのひとつの素材』という認識が広まっている。今後は新たな戦略を立てることが必要となるだろう」との見通しを述べた。

ノースウエスト準州

新しい日本窓口を開設予定 オーロラ以外のプロダクトにも注力

ノースウエスト・テリトリー観光局では、日本窓口を再開すべく、代理店を選考中。6月半ばには決まる見通しで、選考の最終段階にある(2014年5月現在)。観光局としては、「CTCジャパンが掲げる『チームカナダ』の枠組みにおいて、CTCと協力しながら、日本マーケットの需要喚起に努めたい」(観光局ディレクター・オブ・マーケティングのロン・オストロム氏)考え。業界へのアプローチとしては、「セールの原動力となる」旅行会社や航空会社と組んだ取り組みを進めていく。一般消費者向けには、ソーシャルメディアに力を入れる。「日本語のFacebookページ開設や先日記リニューアルしたばかりのウェブサイトの日本語化を図りたい」(オストロム氏)

2013～2014年冬シーズンのオーロラ目的の訪問者数は約1万6000人。うち日本人は1万2000人から1万3000人を占め、好



左から観光局エグゼクティブ・ディレクター、キャシー・ボリスとオストロム氏

調に推移した。今後の課題として、オストロム氏が挙げるのは「航空アクセスとホテルのインフラ整備」の2つ。また、オーロラ以外の新しいプロダクトとして、ナハンニ国立公園、オーロラや星空観賞に適したダークスカイ保護区の指定を受けたウッド・バッファロー国立公園などを提案していきたい考えた。

バンフ／レイクルイーズ

体験型旅行に少しずつシフト 夏の新アトラクションも

日本人の需要は「今年は横ばいか少し増加の見通し」と語るのは、バンフ・レイクルイーズ観光局インターナショナル、アジア担当のルーカス・プロチャスカ氏。定番のパッケージツアーで訪れるケースが主流だが、最近の傾向として「FIT、体験型の旅が増えている」と指摘する。「ハイキングやロングステイなど、日本人の旅のスタイルが少しずつ変化している」(プロチャスカ氏)

今年はマウント・ノーケイのスキーリ



プロチャスカ氏

フトが夏季も運行、ガイド付きのワイルドな山登り体験などのアトラクションを提供、夏の新たな魅力として提案する。

RVC2014レポート ②

RVC2014 Report ②

オンタリオ州

羽田線に大きな期待、
地方マーケット開拓も

羽田⇄トロント線の就航を控えたオンタリオ州。オンタリオ州観光局は、CTCと組んだ就航記念のキャンペーンを展開、「これまでのキャンペーンと比べ、反響が大きく、羽田線の知名度アップにつながっている」(観光局日本事務所アカウントマネージャー田中恵美氏)と、上々の反応を見せている。

観光局としては、まず大都市トロントの町の魅力をアピールする方針。羽田線の就航を機に「トロントに宿泊、またはモノステイの商品が増えている」ことから、パッケージツアー参加者向けに製作した「トロントグルメマップ」などを使い、町での過ごし方を提案していく。4月からはトロント観光局が日本にPR拠点を開設したことで、こちらとの連携も図る。

またトロント以外でも、オタワやサウザンアイランド・クルーズ、ブルーマウンテンなど、新しい素材も交えながらリピーター誘致にも力を入れる。特にオタワは、来年の女子サッカーのワールドカップの試合が開かれる予定。観光局ではトロント、ナイアガラに続き、オタワのグルメマップを秋に発行、田中氏は「ツアー参加者への配布用として、ツアー造成に役立ててもらえれば」と語る。

一方、羽田線就航により、日本の地方マーケットにも期待を寄せる。田中氏は



左から観光局トレード・コンサルタント、アジアのハービー・浜崎氏、田中氏

「特にファーストタイマーに期待したい。10月のCTCワークショップに前後した形でオンタリオ州のミッションが来日、東京だけでなく地方都市もまわり、地方需要を喚起していきたい」考えた。

MICE需要についても、今年トロント観光局がPR同様、日本にMICEの窓口を開設したことで、需要を喚起していく。「今年はライオンズクラブの大会などが予定されており、需要は堅調。アメリカに比べ費用が安く済む点やCNタワー、ワイナリーなど、ユニークなベニューが揃うことから、関心が高まっている」(田中氏)という。

昨年同州を訪れた日本人は、前年比0.7%増を記録。今年は羽田線就航以外にも、日本航空が紅葉チャーターを昨年同様の規模で実施する予定で、大きな伸びが期待できる。

ケベック州

日本での活動強化、
第一弾は夏旅キャンペーン

今年、旅行業界向けの日本窓口を再開し、日本への活動を強化するケベック州政府観光局。その第一弾としてスタートしたのが「ドラマティーク・ケベック・キャンペーン」。日加旅行業協会(JACATA)とCTCの協力を受け、夏の魅力を訴求、旅行会社5社が関連パッケージを造成した。

キャンペーンサイト (<http://www.dramatique-quebec.com/>)では、ケベック州の夏の魅力を紹介。モントリオール国際ジャズフェスティバルやF1カナダ・グランプリなどのイベント、食文化、モントリオールやケベックシティの町歩きなどを提案する。ターゲットは好奇心旺盛な30代以上の女性グループやファミリー層。

ケベック州観光局戦略立案/マーケティング担当マーケット・アドバイザーのロン・パケット氏は「大変反応が良く、大きな可能性を感じた。来年はもっと大きな規模で展開したい」と自信を見せる。さらに今後は「旅行会社と協力し、歴史



パケット氏

や文化など、日本人の関心が高い要素を切り口としたパッケージ開発に力を入れたい」考えた。

日本からケベック州への観光需要は、紅葉の秋に集中、その割合は「7割を超える」(パケット氏)という。偏った需要を平準化する意味で今回の夏旅キャンペーンは大きな意味がある。パケット氏は「もちろん、引き続き秋のアピールは継続していくが、ほかの季節の需要喚起にも力を入れたい」と説明。冬についても「アイスホテルやウィンター・カーニバルなどの素材があり、旅行会社とパッケージ化を進めている」とのことだ。

プリンス・エドワード島 (PEI) 州

朝ドラ効果奏功
「2~3年後見据えた」戦略を

今年朝ドラ効果で、旅行需要が好調のPEI。プリンス・エドワード島州政府観光局日本代表の高橋由香氏は「旅行会社のヒアリングによると、軒並み150%から200%の推移。オンライン旅行会社でもPEIが検索の上位にランキングしたり、ビューが増えたり、反応は大きい」と語る。

その一方、高橋氏は「PEIはロングホールのデスティネーション。実際の商品の購買には費用面で負担を考えると、ドラマの後半以降、来年にかけて反応が出るのではないかと見る。そのため観光局として、来年度上期の商品については、旅行会社に早めに設定してもらえよう呼びかける考え。高橋氏は「興味が薄れる前に需要をいち早く取り込みたい」と語る。

またブームの後の「2~3年後を見据えた戦略も必要」との認識も。高橋氏は



左からプリンス・エドワード島州政府観光局ディレクター・オブ・マーケティングのブレンダ・ガラント氏、高橋氏

「できるだけ落ち幅を小さくし、旅行会社の皆様に今後も商売できるような態勢を整えたい」と語る。

その意味でも注目するのが食の分野。「赤毛のアンは観光局として大切な観光素材だが、逆にアンのイメージが強すぎてPEIを倦厭する人もいる。PEIの食やそれにまつわる人々の暮らしや島の景色など、赤毛のアンだけではなく興味を持つ分野を広げることで裾野を広げていければ」(高橋氏)と期待をかける。

トロント観光局

イベント軸に集客

北米有数の大都会であるトロント。観光局日本・韓国マーケット開発マネージャーの鈴木正城氏は「日本人にとってカナダは自然のイメージが強い。トロントという町をアピールしていくのはチャレンジだ」と説明する。

そのうえで、同氏が注力するのは、イベントを軸とした需要喚起。世界でも有数の規模を誇るLGBTパレード「ワールドプライド」(6月20日~29日)や佐藤琢磨選手が参戦するホンダのインディーカー・シリーズ(7月19・20日)などのツアー商品化による集客が実現した。

鈴木氏は「小さな動きではあるが、毎



鈴木氏

年重ねていくことで集客を増やしていきたい」と意気込む。ほかにも世界で第2位の規模を誇る農業見本市「ザ・ロイヤル」(11月7日~16日)、今年はトロントで男子トーナメントが開かれるテニスのロジャーズ・カップ(8月2日~10日)などの訴求も図っていく。

ナイアガラ・フォールズ

来年のRVC開催地

来年のRVC開催地となるナイアガラ・フォールズ。ナイアガラ・フォールズ観光局インターナショナル・ツアー&アジア太平洋地区旅行業界担当マネージャーのナターシャ・ベラシヨフ氏は「来年のRVCは、日本の旅行会社の方々が実際にナイアガラの観光素材を体験できるまたとない機会。ぜひ楽しんでいただきたい」とアピールする。観光局では、ナイアガラの滝のクルーズや周辺のワイナリーなどを使ったスペシャル・イベントを企画、準備を進めている。

日本からの需要にも期待を寄せる。ベ



ベラシヨフ氏

ラシヨフ氏は「フライトが増え、経済情勢もよくなり、カナダ旅行に目が向く環境にある。観光局として、オンタリオ州観光局と協力しながら、FAM受け入れなどのサポートに努めたい」と語る。

エア・カナダ

関西エリアでも注目の羽田線、
プレエコにも高い関心

羽田⇄トロント線の就航を間近に控えたエア・カナダ。現在、日本路線の輸送状況について、営業部次長の阪井裕司氏は「羽田線就航が日本路線全体に良い効果を与えており、順調に推移している」と語る。同社の目下の目標は「羽田線をいかに成功させるか」。カナダを軸に、アメリカや南米への乗り継ぎ需要にも力を入れる方針だ。また就航記念のキャンペーンも「今まで以上に反響が大きい」とのこと、大きな露出効果を見せている。

一方、羽田線の就航により、地方マーケットへの営業も強化。阪井氏は「特に関西地方からはかなり需要を取り込めそうだ」と説明、すでに関西の旅行会社ではドラマ効果で同社の羽田線を使ったプリンス・エドワード島や定番の秋の紅葉の商品造成が積極化している。阪井氏は「旅行会社からの期待が非常に高い。現在、当社は大阪に拠点を持っていないが、定期的に営業をかけることで需要を取り込んでいきたい」と意欲を見せる。



阪井氏

また羽田⇄トロント線には、同社の新しいプロダクトとして、プレミアム・エコノミーが搭載される。阪井氏は「旅行会社より同クラスへの問い合わせを多く受けており、関心の高さがうかがわれる。専用のミールや優先搭乗など、エコノミーとは別のクラスとして、差別化したプロダクトを提供している点に注目が集まっている」と状況を語る。なお、パッケージツアーでは利用しやすい追加料金を設定、利用を促進させたいと考えた。

VIA鉄道、最新寝台を初公開
新「プレスティージ寝台車クラス」来年登場

VIA鉄道は、「RVC14」会期中に大陸横断鉄道「カナディアン号」(バンクーバー⇄トロント間)に搭載する新「プレスティージ寝台車クラス」を初公開した。今年8月を目処に一部列車/一部区間に試験的に導入、来年の本格運用を目指す。

木目調のシックなインテリアで高級感を感じさせる各寝台は、現在の「寝台車プラスクラス」(2人用)よりも1.5倍の広さ。窓も1.6倍と大きくなり、美しいカナダの風景を楽しむことができる。またシャワー設



国内・海外担当シニアディレクターのビエール・サント二氏。
VIA鉄道新寝台車を搭載した車両の前に



新しい「プレスティージ寝台車クラス」

新規需要の取り込みへ 各旅行会社の動き

株式会社JTBメディアリテリング



西日本事業部
業務部海外旅行2課
課長代理
まどころ かつより
間所 且順 氏

全日空の 羽田⇄バンクーバーが好影響

カナダ方面はこれまでのところ、前年比300%と数字の上では絶好調。昨年は6月のカナディアン・ロッキーの洪水の影響でツアーキャンセルが発生、マイナス要因からの反動という側面もあるが、今年は特にマイナス要因がない上、やはりANAの羽田⇄バンクーバー線就航が大きく影響している。

関西からカナダへの直行便がないため、これまでは成田経由を使うことが多かったが、羽田経由が可能になったことで国内線部分のキャパシティが格段に増え、利便性も増した。

これまでのように、伊丹から国内線で羽田に到着し、リムジンバスに乗り換えて成田へ向かい、カナダ線へ乗り継ぐといった煩わしさがなくなるだけでも心理的な壁が取り払われる。こうした状況を見越してカナダ強化の手を打ったことが、前年比300%の結果として実を結んだ。

発売を1カ月前倒して 需要先取り

カナダ強化の方針のもと、まず意識したのは「競合する他社や他方面との価格競争力」(間所氏)だ。

特に他方面と比較した上で、値ごろ感にこだわった。「たとえば想定したのがスイス方面。消費者がスイスカカナダか迷った場合には、カナダに取り込めるような値付けを考えた」という。

加えて座席確保のため発売の前倒しを行った。昨年の11月に関空⇄シアトル線が運休、シアトル経由のカナダという商品造成ができなくなり、関西発でアメリカ経由のカナダは、サンフランシスコ経由しか選択肢がなくなった。

そのため、今年はシアトル線の運休分も含めた座席確保が必要となり、さらに夏の繁忙期には座席確保が厳しくなるのが例年の状況だったため、今年は前倒しで手を打った。

具体的には、カナダ商品の発売を昨年より1カ月ほど前倒した。これにより「早め早めに発生ベースの需要を取り込み繁忙期に備えた」という。

つまり夏までに十分な実績を積み上げることで、座席が逼迫する繁忙期に、航空会社との仕入れ交渉を有利に運べる環境作りをしておこうという発想だったわけだ。

定番のハイライト商品で 初心者取り込み

商品面で見ると、今年は「カナダベストハイライト8日間」「カナダ・アメリカ三都浪漫7日間」「カナダ大西洋の街とプリンス・エドワード島6日間」といった、カナダの人気要素をハイライトした定番的な商品が人気を博している。早めの発売と値ごろ感が、カナダ初心者の呼び込みに成功したと考えられる。

「カナダ・アメリカ三都浪漫7日間」はナイアガラ大瀑布観光、ニューヨーク市内観光、カナディアンロッキーといった人気のある観光要素をコンパクトな日程に仕立てた内容だが、ポイントはニューヨーク。定番ならバンクーバーを組み合わせるところだが、あえてニューヨークを合わせた。これが消費者に支持され、ヒット商品となった。

秋商品も 出足好調

春夏の好調を受け、秋商品でも同様の手法でカナダ強化を継続する方針だ。まずは発売時期の前倒し。「例年は秋商品を6月に発売していたが、今年は5月に繰り上げた」(間所氏)。新聞広告での本格的な販促は6月中旬以降だが、毎月発行しているDMを中心にカナダをアピール。

ちなみに5月号ではDMの表紙にカナダを掲載し春夏ものをアピールしたが、7月号では、紅葉に色づくカナダの景観が表紙を飾る予定で、秋のカナダの意識付けが始まる。

出足も好調で、「秋の彩(いろどり)カナダ9日間」、「秋のプラチナルートカナダ8日間」、「ロイヤルカナダ10日間」といった商品が引くつ張る。

春夏で好調な「カナダ大西洋の街とプリンス・エドワード島6日間」も好調さをキープ。やはりNHKの朝ドラ効果が大きく、年間を通して好調を牽引するヒットコースとなっている。

クラブツーリズム株式会社



アメリカ・オセアニア旅行センター
リーダー
たなか よしひろ
田中 佳宏 氏

ニーズの細分化に対応した 幅広いラインナップ

クラブツーリズムのカナダ商品の販売が好調だ。昨年は前年比20%増を達成し、今年はこれまでのところ、昨年をさらに40%上回る販売となっている。ただしこの好調さを支えているのは「何か一つのヒット商品があるというわけではなく、一つ一つの商品が着実にリピーターのニーズをとらえた結果」(田中氏)だという。そもそもクラブツーリズムは、60代中心の顧客層に対して会員誌を通じた販売促進を行うのが主な販売形態で、リピーターの支持が重要なカギを握っている。しかし海外旅行の経験を重ねたりリピーターほどニーズが細分化し、志向が分かれていく傾向がある。そのためニーズの細分化に対応した多彩な商品ラインナップがクラブツーリズムの特徴だ。

カナダ商品の場合「カナダ周遊」「カナダ／アメリカ周遊」「カナディアン・ロッキー(鉄道の旅)」「カナディアン・ロッキー(歩く旅)」「燃料サーチャージ込みのお手頃なカナダ旅行」「ビジネスクラスで行くカナダ旅行」「プリンス・エドワード島」「プレミアム・ステージ(高額商品)」「オーロラ観賞」と、商品カテゴリーだけでも9つに分かれている。田中氏は「カナダ商品をこれほど細かくラインナップしている旅行会社は他にないはず。お客様の志向に向き合い、マッチングさせていった結果だ」と説明する。

商品コンセプトの 明確化を徹底

商品を細分化すれば当然のことながら商品コンセプトも明確になる。逆に言えば「商品コンセプトの明確化を徹底させているのが強み」(田中氏)であるわけだ。

羽田線の就航や、ドラマの露出など、カナダへの旅行需要が盛り上がりを見せる中、各旅行会社は新規需要の獲得へ向け、さまざまな取り組みを進めている。またカナダだけの体験を盛り込んだユニークな商品設定など、新たな商品造成へ向けた動きも顕著だ。ここではカナダへの旅行商品展開を強化している旅行会社の現状を紹介したい。

たとえば「赤毛のアン」にちなんだプリンス・エドワード島(PEI)がらみの商品は各社が力を入れる企画だが、他社との差別化を図るため「『赤毛のアン』の世界を満喫できる、徹底的に疑似体験が楽しめる仕掛けを組み込んだ」(田中氏)。たとえば「赤毛のアンの家」の見学は、一般の開館時間の前に貸切で楽しめるようにした。これで混雑なくゆっくりと見学できる環境を確保した。また「赤毛のアン」をテーマにした食事を用意。ここでも「赤毛のアン」の世界に浸れるよう工夫した。さらに今年の商品では、グリーンゲイブルズ博物館の赤土の庭園で馬車に乗り、物語の世界に入り込んだような感覚が味わえる仕掛けも取り入れた。

新規顧客獲得へ向けて PEIチャーター便商品

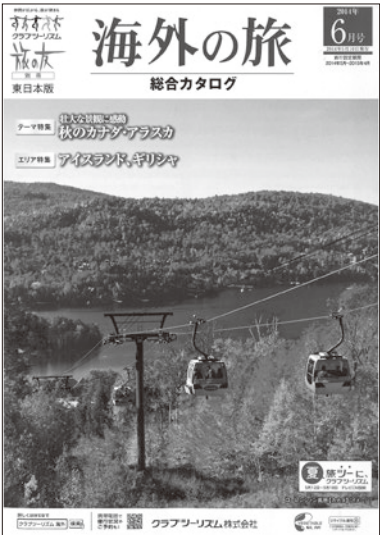
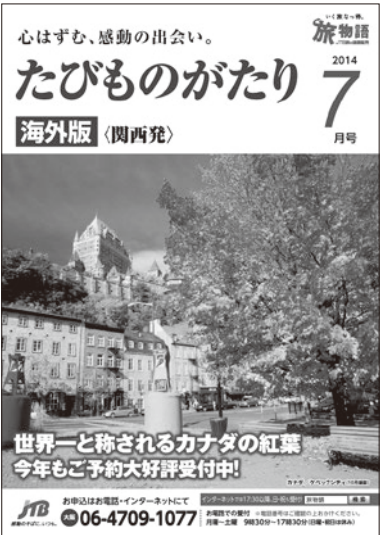
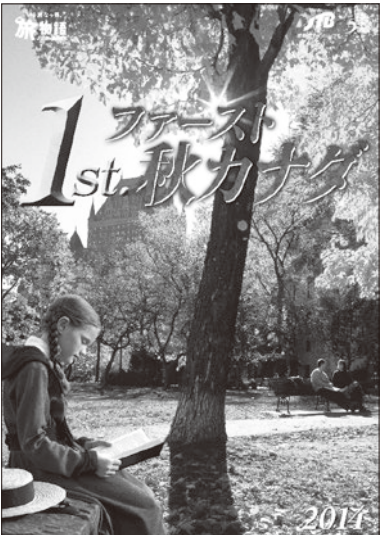
今年はNHKの朝ドラの影響もあって「赤毛のアン」関連のプリンス・エドワード島(PEI)商品の人気上昇が予想された。このためクラブツーリズムでは、リピーターだけでなく「赤毛のアン」もしくはプリンス・エドワード島に馴染みのなかった人でも楽しめる、いわゆる「新規顧客向けの商品」を、間口を広げて用意することにした。そのために選んだのが直行チャーター便の利用。「新規のお客様に、カナダの、それもプリンス・エドワード島に目を向けて頂くには、やはりハードルを下げるが必要で、チャーター便利用が最善だと判断した。また朝ドラの追い風もある今年こそがチャーター便実現の絶好のチャンスでもあると考えた」わけだ。

直行チャーター便を利用した商品でハードルを下げたうえで新規顧客を取り込み、さらには今後のリピーターにつなげていくというのが基本的な考え方だ。

カテゴリーを創造する

今後はカナダ方面での、さらなる商品カテゴリー作りに取り組む方針だ。クラブツーリズムは、カナダ方面で「歩く旅」の分野を開拓してきた実績がある。「数年前はカナダ方面で歩く旅の発想はなかった。しかし、スイスやアラスカで歩く旅の楽しさを知ったお客様を、カナダにも誘導しようと商品開発を進め、市場を開拓してきた結果、今では商品カテゴリーとして成立するようになった」(田中氏)。

同社ではカナダの可能性を広げ、需要を底上げしていくには新カテゴリーの創造が欠かせないと見ており、「カナダ観光局のCanadian Signature Experiencesなども参考に、新カテゴリーを見出していきたい」としている。



プリンス・エドワード島(PEI)の食の魅力

「赤毛のアン」を生んだ島には 食の恵みがいっぱい

今、ドラマで話題のプリンス・エドワード島(PEI)。モンゴメリの小説「赤毛のアン」の舞台として有名だが、実際に訪れてみると、その小説に描かれた数々の島の情景は今も息づいていることがわかる。島の美しい風景、そして島の人達の暮らしがりと等身大のライフスタイルに出会うことで、「なぜこの島でこんな素晴らしいストーリーが生まれたのか」、その理由に気づくはずだろう。



© Tourism PEI / Ann MacNeil

そんな島の豊かな自然や人々の営みは、「赤毛のアン」だけでなく、自然の恵みをいっぱいに浴びた「食材の宝庫」という魅力ももたらしてくれた。新鮮なシーフードをはじめ、豊かな農産物、地元の食材を使った美味しい料理、そして収穫を祝うお祭りなど、バラエティーあふれるPEIのグルメシーンは、旅の大きなひとつの目的となるはずだ。豊かな味わいを持つこの島で、心から満足する旅を体験したい。



© Tourism PEI / John Sylvester

新鮮な シーフード



PEIに来たら、まずシーフードを味わいたい

© Canadian Tourism Commission

セントローレンス湾の豊かな海域に囲まれたプリンス・エドワード島は、ロブスターをはじめ、カキやムール貝など新鮮なシーフードが楽しめる。

ロブスター

特に有名なのがロブスター。とびきり美味しいシーズンは、2つ。5月から6月末にかけてと、8月から10月の間だが、年間通じてフレッシュなロブスターをPEIでは堪能できる。



© Canadian Tourism Commission

新鮮なロールパンに地元の果物や野菜、PEIのポテトを使ったポテトサラダ、そしてボイルしたロブスター、これが島の伝統的な夕食スタイル。日本では贅沢なロブスターを思う存分味わいたい。

カキ

日本でカキの産地といえば、広島や宮城などが有名だが、北米でまず名前が上がるのはPEI。ニューヨークのオイスターバーでもPEI産のカキは大人気。その味は世界でもトップクラスだ。



© Tourism PEI / Barrett & Mackay

シャンパンでボイルした香ばしさあふれるカキ、刺激的なサルサソース、パン粉で揚げたジューシーな旨味を閉じ込めたカキフライ、クリーミーなカキチャウダーなど、カキ料理もさまざま。シーズンになると、地元のレストランやパブで気軽に楽しむことができる。

ムール貝

一番おいしいムール貝の産地として、世界的に評価の高いPEI。とれたてのムール貝を白ワインで蒸したワイン蒸しは、それだけでごちそうに。ハーブ蒸しやチャウダー、オムレツに入れたり、ムール貝を使ったレシピはたくさん。ハマグリやホッキ貝など、ほかの貝類も美味しいのでぜひ味わいたい。



© Canadian Tourism Commission

ロブスター漁に挑戦！ とってもユニークな島体験！ Top Notch Lobster Tours



© Tourism PEI / John Sylvester

ロブスター漁の船に漁師と一緒に乗船していざ出港。ロブスター漁の説明を受け、仕掛けのブイを見つけたらロブスターを引き上げる。ロブスターをはじめとする甲殻類の興味深い生態についても学ぶことができる。漁の後はお楽しみの食事タイム。そのフレッシュな美味しさに思わずワインが進むはず。PEIの特徴的な赤い崖の海岸線や美しい入江など、素晴らしい景観も楽しめる。

<http://www.markscharters.com/>

巨大なホッキ貝を探せ！ Giant Bar Clam Dig

シュノーケルとマスクを装着し、プロの人たちに交じって海中の巨大ホッキ貝掘りに挑戦。収穫した貝はランチとしておいしく味わえる。

http://www.tcpei.com/packages/clam_digging/



© Canadian Tourism Commission



© Canadian Tourism Commission

地産地消 島の味はレストランで

地元の食材を使って地元で美味しく頂く、地産地消の取り組みが盛んなプリンス・エドワード島では、レストランで島の新鮮なシーフードや野菜、果物をふんだんに使った美味しい料理を食べることができる。豊かな恵みに誘われて、人気シェフが数多く集まり、腕によりをかけた最高の料理を堪能できる。

自分の手でPEIの料理をつくらう Culinary Bootcamps

まずはシェフと一緒に地元の市場を訪れ、島の豊かな食材について生産者から学びながら、その日に料理する献立の材料を調達。キッチンに入ったら、料理訓練がスタート。シェフの指導を受けながら極上の一品に仕上げていく。畑から食卓まで、地産地消を自分の手で実践するユニークなプログラム。自分で作った料理の味はまた格別だ。

http://www.hollandcollege.com/culinary_bootcamps



© 2014 Holland College

収穫の秋を祝う食の祭典 フォール・フレイバース・フェスティバル

秋のフォール・フレイバース・フェスティバルは、収穫の秋を祝う1カ月にわたる食の祭典。島内のさまざまなスポットで特産品や伝統料理にまつわる75のグルメイベントが開催される。

ビーチでシェフが腕を振るう
© Tourism PEI州都シャーロットタウンの目抜き通りが
一大ファーマーズマーケットに
© Tourism PEI

州都シャーロットタウンの目抜き通りが一大ファーマーズ・マーケットに様変わりするほか、有名シェフによるコース料理、ビーチでロブスターバーベキューなど、グルメファンにはたまらない内容のものばかり。

今年は9月5日から28日までの開催。
<http://www.fallflavours.ca/>

島の豊かな土壌で育った 農産物

美しい田園風景がどこまでも広がるプリンス・エドワード島。島の豊かな土壌で育った野菜や果物は、そのクオリティーの高さで、カナダ全土やアメリカに流通している。島の経済を支える主要産業が食品関係というもうなずけるはず。近年、オーガニック栽培にも力を入れている。

じゃがいも

島のあちこちで見かけるじゃがいも畑。じゃがいもはPEIの特産品としてカナダでは有名だ。カナダ建国よりずっと前の1700年頃から栽培が始まったまさに島には欠かせない農産物。島の経済を長年支え続けてきた。夏と冬がはっきりして、適度な降水量があるPEIの気候、そして赤い砂のような土壌には程よく鉄分が含まれ、質の高いじゃがいもが育つ環境に恵まれている。

じゃがいもの無人販売所
© Tourism PEI / John Sylvester採れたての新鮮野菜がいっぱい
© Tourism PEI / Barrett & Mackay

のどかな田園風景が広がるPEI

© Tourism PEI / Paul Bagiole

りんご

じゃがいもと並ぶ人気の農産物がりんご。5月下旬から6月上旬にかけて、りんごの花が咲く季節には、白い可憐な花がりんご畑をうめつくす。その光景はなんとも優雅。小ぶりのPEIのりんごを使ったジュースやジャム、りんごのお酒(シードル)などの加工品も充実しているので、おみやげにもピッタリだ。



© Tourism PEI / John Sylvester

りんごを収穫、 オリジナルのサイダー作りも

Pick & Press

まずは自分の手でりんごを収穫。その後は、圧搾機を使って果汁を絞り出し、オリジナルのアップル・サイダーを作る。
<http://www.experiencepei.ca/>

島のグルメを堪能するなら必ずチェック カリナリー・トレイル

食の魅力満載のプリンス・エドワード島では、食にまつわる沢山の体験が用意されている。そんなPEIのグルメシーンを体験できるユニークで楽しいガイドだ。

<http://peiflavours.ca/> (英語)

グルメガイド「ザガット」太鼓判の「食通におすすめの旅行先」

プリンス・エドワード島の食の魅力は、各方面でお墨付き。例えば世界で名高いグルメガイド「ザガット」の「食通におすすめの旅行先(Best Foodie Getaway)」の第2位に選ばれるなど、定評が高い。



CANADA

The Gentle Island

プリンス・エドワード島州政府観光局
<http://www.tourismpei.com/jp>



カナダ 羽田デビュー。

羽田発トロント経由。スイスイ乗り継ぎ、北米・中南米が近くなる。

エア・カナダマン
はんにゃ 金田(かなだ) 哲





プレゼントキャンペーン

エア・カナダのfacebookページから
**クイズに答えて
エア・カナダに
乗ろう!**

エア・カナダのfacebookページに「いいね!」をし、
クイズに答えてキャンペーンにご応募ください。

正解者の中から抽選で
羽田↔トロント 往復航空券
1組2名様にプレゼント!

または **NIKON** デジタルカメラ
2名様にプレゼント!



Nikon
COOLPIX S6800

キャンペーン実施期間
2014年7月13日23:59まで
当選発表日 **2014年7月31日**

皆様からのたくさんのご応募を
お待ちしております!

ご応募は
こちら▶▶

 [aircanadajp/エア・カナダ](#)